

シ人ノ乗載セル汽車又ハ電車ヲ顛覆破壊スルノ危険ハ實ニ重大ナルモノアルヲ以テ無期徒刑又ハ三年以上ノ懲役トナシ重ク處分シタリ、人ノ乗載セル艦船ヲ覆没破壊シタル者モ亦同一ノ理由ニ依リ同一ニ處分セラルヘキモノトス、而シテ本罪ヲ犯シタルニ因リテ人ヲ死ニ致シタル者ハ危害ノ程度殊ニ重大ナルヲ以テ之ヲ死刑又ハ無期懲役ニ處スヘキモノトセリ、但シ單ニ人ヲ傷ケタルニ止マルトハ本條第一項第二項ノ規定ニ依リテ處分セラルヘク傷害罪ニ問ハル、コトナシ、

第二百二十七條

第二百二十七條 第二百二十五條ノ罪ヲ犯シ因テ汽車又ハ電車ノ顛覆若クハ破壊又ハ艦船ノ覆没若クハ破壊ニ致シタル者亦前條ノ例ニ同シ

四圍 本條ハ電車汽車艦船ノ往來ヲ妨害セル結果トシテ以上ノ物ノ顛覆破壊若シクハ覆没ヲ惹起シタル罪ノ規定ナリ、汽車電車ヲ顛覆破壊シ又ハ艦船ヲ覆没破壊セシメタルモノハ直接ノ手段ヲ以テ之ヲ爲シタルト鐵道又ハ其

第二百二十八條

標識ヲ損壞シタルカ爲ニ間接ニ顛覆覆没ヲ見ルニ至リタルト危害ノ點ニ於テ異ル所ナキヲ以テ汽車電車艦船ノ妨害ヲ爲シタルニ因リテ遂ニ其轉覆破壊覆没ヲ致シタル者ハ前條ノ例ニ依リテ處斷スヘキモノトセリ、

第二百二十八條 第二百二十四條第一項、第二百二十五條及ヒ第二百二十六條第一項、第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

四圍 本條ハ往來ヲ妨害スル罪ノ未遂犯ヲ罰スル規定ナリ、蓋シ往來ヲ妨害スル罪ノ如キ社會ニ危害ヲ及ホスコト重大ナルモノニアリテハ假令未タ實害ヲ生セスト雖モ之ヲ罰スルノ必要アルヲ以テナリ、

第二百二十九條

第二百二十九條 過失ニ因リ汽車、電車又ハ艦船ノ往來ノ危険ヲ生ゼシメ、又ハ汽車、電車ノ顛覆若クハ破壊又ハ艦船ノ覆没若クハ破壊ヲ致シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス、其業務ニ従事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以上ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

要義 本條ハ往來ヲ妨害スル罪ノ過失犯ヲ罰スル規定ニシテ其業務ニ従事スル者ト然ラサル者トニ依リテ處分ヲ異ニシ前者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノトシ後者ハ五百圓以下ノ罰金ニ止メタリ蓋シ其業務ニ従事スル者ハ普通人ニ比シテ一層大ナル注意ヲ拂フヘキモノナルニ懈怠ニ依リテ危険又ハ危害ヲ生セシメタルニ於テハ從ツテ重キ責任ヲ負ハシムルモノ必要アルヲ以テナリ

住居ヲ侵ス罪

第十二章 住居ヲ侵ス罪

要義 本章ハ所謂家宅侵入罪ノ規定ナリ家宅侵入罪トハ不法ニ法文ニ列擧シタル場所ニ立入ルカ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヲ退去セサル罪ヲ云フモノニシテ住居其他法文ニ列擧スル場所ハ人ノ生活ノ安全自由平和ヲ保ツニ於テ重大ノ關係アルモノナルヲ以テ法律ハ之ニ對スル侵入ノ行爲ヲ處罰シテ人民ノ安寧幸福ヲ保護スルコトセリ

舊法ハ其侵入ノ夜間ナルト晝間ナルトニ依リ刑ノ輕重ヲ設ケタリト雖モ此

區別ハ毫モ必要ナキノミナラス若シ闇黒ナルノ故ヲ以テ刑ヲ重クスルトセハ日晦雨天ノ時ト晴天ノ時トニ依リ刑ニ差等ヲ設ケサルヘカラサルコトナルヘク頗ル理由ナキコトナルヲ以テ新法ハ之ヲ削除セリ舊法ハ人ノ住居シタル邸宅云々ト規定セル爲メ往々ニシテ狭ク其意義ヲ解シ人ノ住居トシテ借受ケタル室内ニ侵入スル場合ノ如キハ罪ト爲スト解スルモノナキユアラサルヲ以テ新法ニ於テハ之ヲ人ノ住居ト改メ苟モ生活ノ本校ナル以上ハ其住居ノ場所ノ何タルコトヲ問ハサルコト爲シ又從來艦船内ニ侵入スル罪ヲ規定セサル爲メ實際上往々不便ヲ感シタルヲ以テ新ニ艦船ノ侵入ヲ加ヘ尙ホ舊法ハ唯侵入ノ行爲ヲ罪スルノミニシテ一旦人ノ住居ニ入りタル者ノ要求ヲ受ケテ退去セサル場合ノ規定ヲ缺キタル爲メ解釋上甚シキ困難ヲ生シタルコト一再ニ止マラサリシヲ以テ新法ハ新ニ此規定ヲ設ケタリ蓋シ我國ノ慣習トシテ無斷ニテ他人ノ門内又ハ玄關先ニ立入ルコトヲ別ニ不法ト考ヘサルヲ以テ既ニ立入りタル者ニ對シテ其管理權者ヨリ退去ヲ命セラレテ尙ホ退去セサルトキニ家宅侵入罪トシテ論スヘキ場合多ケレハ之レ實ニ

必要ノ規定ト云ハサルヘカラス、

第三百十條

第三百十條 故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ艦船ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セザル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

圖釋 本條ハ住居侵入罪ノ規定ニシテ本罪ノ成立ニハ(一)侵入シ又ハ管理權者ノ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサルコト(二)故ナクシテ侵入シタルコト(三)侵入ノ場所ハ法律ニ列記シタルモノナルコトノ三要件ヲ必要トス、侵入トハ不法ニ入り込ムコトヲ云フ、故ニ法律ニ於テ侵入權ヲ認メラレタル者例ヘハ豫審判事カ家宅搜索令狀執行ノ爲ニ人ノ住居ニ侵入スル如キハ固ヨリ本罪ノ構成要件トナラス、故ナクシテトハ管理權者ノ意思ニ反シテノ義ナリ、管理權者トハ其住居邸宅ノ主宰者又ハ代理人ヲ云フモノニシテ各場合ニ付キテ之ヲ定メサルヘカラス、法文住居ト云フハ民法ノ住居ト云フト同シク生活ノ本據ヲ指ス、邸宅トハ家屋又ハ家屋以外ノ建物ニ附屬セル圍繞地域内ト云フノ

第三百十一條

第三百十一條 故ナク、皇居、禁苑、離宮又ハ行在所ニ侵入シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

圖釋 本條ハ皇宮、禁苑、離宮、行在所、神宮又ハ皇陵ニ侵入シタル者ニハ其刑ヲ加重スヘキ趣意ヲ明ニシタル者ナリ、皇宮、禁苑、離宮、行在所、神宮、皇陵ノ意義ヲ前述シタルヲ以テ略ス、

第三百十二條

第三百十二條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

圖釋 前章ニ付キテ述ヘタル所ト同一ノ理由ニ依ル、

秘密ヲ侵ス罪

第十三章 秘密ヲ侵ス罪

四圍 本章ハ人ノ秘密ヲ漏泄スル罪ノ規定ニシテ舊法ニ於テハ人ノ秘密ニ關スル罪ヲ以テ誹毀罪ト爲スト雖モ元來秘密ヲ侵スコト、人ヲ誹毀スルコト、ハ其性質同一ナラサルヲ以テ新法ハ之ヲ分離シ本章ニ於テハ信書ヲ開披スルノ罪醫師辯護士宗教ノ職ニ在ル者等ノ其業務上知り得タル秘密ヲ漏泄スル罪ニ關シテ規定ヲ設ケタリ、

第三百三十條

第三百三十條 故ナク封緘シタル信書ヲ開披シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

四圍 本條ハ信書ノ秘密ヲ侵ス罪ノ規定ニシテ信書ヲ開封スル權アル者ノ意思ニ反シテ信書ヲ開披シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノトセリ、信書トハ或ル人カ特定ノ他人ニ對シテ其意思ヲ傳達スル書面ヲ云フモノニシテ私人ニ對シテ傳送スル書狀書置、手紙、郵便ニ依ル書狀、葉書皆之中ニ包含セラル、然レトモ封緘シタル書狀ニアラサレハ本罪ヲ

第三百三十四條

構成セス

第三百三十四條 醫師、藥劑師、樂種商、產婆、辯護士、公證人

又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付知得タル人ノ秘密漏泄シタルトキ亦同シ

四圍 本條ハ所謂陰私漏告罪ノ規定ニシテ陰私漏告罪トハ一定ノ職業ヲ有スル者カ其職務上委託ヲ受ケタル事ニ固リ知り得ヘキ陰私ヲ漏告シタル場合ニ於テ罪トシテ之ヲ罰スルヲ云フ、蓋シ醫師辯護士其他一定ノ職業ヲ有スル者カ其委託ヲ受ケタル業務ヲ行フニ當リ他人ノ秘密ニ屬スル事項ヲ知り得ルコト尠ナカラス、例ヘハ醫師カ委託ヲ受ケテ外科ノ手術ヲ行フニ當リコ

ロールホルムヲ嗅カシメタルニ患者カ喪心状態ニ陥リ家事上ノ秘密夫婦間ノ秘密ヲ語り出テタリトセンニ其醫師ニシテ妄リニ之ヲ人ニ漏泄吹聴スル如キコトアラシカ何人モ安ンシテ治療ヲ請フモノナキニ至ルヘク從ツテ同業者ノ信用ヲ害シ一方ニ於テハ公益ノ便益必要ヲ缺クニ至ルヘキヲ以テ法律ハ本條ノ規定ヲ設ケテ陰私漏告ヲ處分スルコト、ナセリ、而シテ本罪ノ成立ニハ(一)醫師藥劑師藥種商產婆辨護士辨護人公證人又ハ以前是等ノ職ニ從事セシ者宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ以前是等ノ職ニ在リシ者ノ所爲ナルコト(二)其業務上取扱ヒタルコトニ付キテ知り得タル陰私ナルコト(三)漏告シクルコト(四)故ナクシテ漏告シタルコトヲ必要トス、辯護人トハ民事訴訟法刑事訴訟法ノ規定ニ依リ一時辯護人タルコトヲ許可セラレタル者ヲ意味ス、宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者トハ重ニ神官僧侶ト限定スルトキハ解釋上不便ヲ生スルヲ以テ宗教禱祀ノ職ニ在ル者トセリ、陰私トハ私ノ關係ニ於ケル事實ニシテ之ヲ秘密ニ附スルコトカ此事實ヲ有スル者ノ爲ニ利益ナル總テノコトヲ指ス、漏告トハ未タ知ラレサル事實ヲ人ニ告クルコトヲ言フ、其ノ

第三百二十五條

公然ナルト否ラサルトハ問フ所ニアラス、世ニ公ニセラレサル事實ニテモ既ニ知リタル人ニ告クルハ漏告ニアラス、然レトモ其眞僞ニ付キ確定的認識ナキ間ニ之ヲ其人ニ告クルハ漏告ナリ、法文故ナクト云フ故ニ本人ノ承諾アルトキハ本罪ヲ構成セス、

第三百二十五條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス
 四圍 本條ハ信用ヲ侵スノ罪ハ之ヲ親告罪ト爲スノ趣意ヲ明ニシタル者ナリ、蓋シ本罪ノ性質トシテ告訴權者ノ訴ナキニ之ヲ罰スル必要ナキヲ以テナリ、

第十四章 阿片煙ニ關スル罪

四圍 本章ハ阿片煙ニ關スル罪ヲ規定セリ、蓋シ阿片ヲ藥用ニ供スルハ却テ病患ヲ治療スルノ効能アリト雖モ之ヲ吸食ニ使用スルトキハ健康ヲ害シ懶惰ノ慣習ヲ助長セシメ國家社會ノ進歩發達ヲ妨クルコト甚シキモノアルノミナラス阿片吸食ノ惡習ハ忽チ社會ニ傳播薰染シ易キヲ以テ國家ハ刑罪ヲ制才トシテカ、ル惡習ノ發生蔓延ヲ防止セリ

阿片煙ニ關スル罪

第三百三十六條

阿片煙ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

【釋義】 本條ハ阿片煙ヲ輸入シ、製造シ、販賣シ、若クハ販賣スルノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ヲ罰スル規定ナリ、

第三百三十七條

阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

【釋義】 本條ハ阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入、製造、販賣シ、若シクハ販賣スル目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ヲ罰スル規定ナリ、

第三百三十八條

稅關官吏阿片煙又ハ阿片煙吸入ノ器具ヲ輸入シ又ハ其輸入ヲ許シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲

役ニ處ス

【釋義】 本條ハ稅關ノ官吏カ阿片煙又ハ其吸食器具ヲ輸入シ又ハ許可シテ輸入セシメタル罪ノ規定ニシテ是等ノ地位ニアル者ハ普通人ニ比シテ此種ノ罪ヲ犯スニ易ク且ツ外ヨリ之ヲ防クニ困難ナルヲ以テ前二條ノ場合ニ比シテ其刑ヲ加重セリ、

第三百三十九條

阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖リタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

【釋義】 本條ハ阿片ノ吸食者ヲ罰スルノ規定ナリ、吸食者ヲ罰スルノ理由ハ前述セルヲ以テ茲ニ再說セス、第二項ノ規定ハ阿片吸食者ノ爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖リタル者ヲ罰スル規定ニシテ斯ノ如キ行爲ハ阿片ノ吸食者ニ對シテ從犯ノ關係ヲ有スルモノナアリト強モ其惡慣習ヲ傳播セシムルニ於テ其

第四百十條

危險ノ種類ハ阿片ノ吸食ヨリモ常ニ大ナルモノアルヲ以テ其刑ヲ加重セリ、
第四百十條 阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所持シタル者
ハ一年以上ノ懲役ニ處ス

四圍 本條ハ阿片煙又ハ其吸食器具ノ所得者ヲ罰スル規定ナリ、

第四百十一條

第四百十一條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

四圍 說明略ス、

飲料水ニ
關スル罪

第十五章 飲料水ニ關スル罪

四圍 飲料水ノ清濁良否ハ人ノ健康ニ關スルコト大ナルヲ以テ國家ハ刑罰
ヲ設ケテ飲料水ヲ汚穢腐敗セシムルノ行爲ヲ罰セリ舊法ニハ公衆ノ用ニ供
スル水道ヲ保護スル規定ナシト雖モ單ニ之ヲ一人ノ用ニ供スル淨水等ニ比
スレハ其害ノ及フ範圍極メテ廣キヲ以テ新法ハ特ニ水道ニ關スル場合ノ規
定ヲ設ケタリ又舊法ノ本罪ニ關スル處分ハ一般ニ輕キニ失スルヲ以テ新法

第四百十二條

ニ於テ一般ニ刑ヲ重クシタリ、
第四百十二條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用
ユルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以下ノ懲役又
ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

四圍 本條ハ飲料水ヲ汚穢シタル者ヲ罰スル規定ナリ人ノ飲料水トハ自己
以外ノ凡テノ人ノ飲料ニ供スル清水ヲ云フカ故ニ獸類ノ飲料ニ供スルモノ
ヲ含マズ而シテ其淨水ハ自己ノ所有ニ屬スル淵源ヨリ湧出シタルモノナル
ト否トヲ區別セズ本條ハ公衆ノ健康ヲ保護スル目的ニ出テタルモノナルヲ
以テ淨水ハ特定ノ人ノ飲料ニ供スルモノニアラスシテ公衆ノ飲料ニ供スル
モノト解スルヲ至當トス、

第四百十三條

第四百十三條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ
其水源ヲ汚穢シ因テ之ヲ用ユルコト能ハサルニ至ラシメ
タル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二編 第十五章 飲料水ニ關スル罪

四百四十四條 本條ハ水道ヲ汚穢シタル罪ノ規定ナリ、法文ノ意義一讀シテ明ナルヲ以テ説明略ス、

第四百四十四條

第四百四十四條

人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康

ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

四百四十五條 本條ハ毒物其他人ノ健康ヲ害スヘキモノヲ混入シテ水質ヲ變シ又ハ腐敗セシメタル罪ノ規定ナリ、

第四百四十五條

第四百四十五條

前三條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル

者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

四百四十六條 本條ハ飲料水ニ關スル罪ヲ犯シタルニ因リテ人ヲ死傷ニ致シタル者ヲ罰スルノ規定ニシテ傷害ノ罪ニ從ツテ處斷スヘキモノトス、

第四百四十六條

第四百四十六條

水道ニ因リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ

其水源ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者

ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ

死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

四百四十七條 本條ハ水道ノ淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害スヘキ物ヲ用キテ水質ヲ變シ又ハ腐敗セシメタル罪ノ規定ニシテ普通ノ淨水ニ比シテ危害ノ及フ範圍大ナルヲ以テ其刑ヲ加重セリ、

第四百四十七條

第四百四十七條

公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ

壅塞シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

四百四十八條 本條ハ水道ヲ損壞壅塞シタル罪ノ規定ニシテ之レカ爲ニ淨水ヲ汚穢セシメ用フルニ堪ヘサルニ至ラシメストモ損壞又ハ壅塞ノ所爲アレハ本罪ヲ構成スヘキモノトス、

通貨偽造ノ罪

第十六章 通貨偽造ノ罪

本章ハ貨幣ノ偽造變造ニ關スル罪ノ規定ナリ、抑モ、貨幣ハ價格ノ標尺、財貨ノ交換手段ナルヲ以テ貨幣ノ偽造變造ハ個人ノ財産上ノ利益ノミナラス

第二編 第十六章 通貨偽造ノ罪

社會ノ公益ヲ害スルコト多ク貨幣ノ製造發行ニ關スル國家ノ特權ヲ侵害シテ公衆ノ法定通貨ニ對ス信用ヲ毀損スルモノナルヲ以テ何レノ國ニ於テモ嚴重ナル刑罰ヲ設ケテ貨幣ノ偽造行使者ヲ處分スルヲ例トセリ、舊法ハ貨幣偽造者ノ成立ニハ偽造變造ノ行爲ト行使トノ二要件ヲ必要トシ單ニ偽造ノ場合ニハ刑ヲ減輕スルコト、爲セリト雖モ是レ甚タ理由ナキモノナルヲ以テ新法ニ於テハ通貨偽造ノ罪ハ通貨ノ偽造又ハ變造アリタルトキニ成立スヘキモノト爲シ從ツテ行使ナキモ偽造又ハ變造ヲ罰スルコト、爲シタリ、舊法ハ貨幣ノ種類ヲ金銀貨及ヒ紙幣ト銅貨トニ分チ罪ノ輕重ヲ區別セリト雖モ新法ハ其必要ナキヲ認メテ此區別ヲ廢シ又兌換銀行券ニ關スル規定ハ刑法ニ設クル必要アルヲ以テ之ヲ加ヘタリ、

第四百十八條 行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第四百十八條

偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同ツ

國語 本條第一項ハ內國通用ノ通貨ヲ偽造變造シタル者ノ罪ニ關スル規定ニシテ本罪ノ成立ニハ(一)內國通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券タルコト(二)偽造又ハ變造シタルコト(三)行使ノ目的ヲ以テ偽造變造シタルコトノ三要件ヲ必要トス、通用トハ國家法律ヲ以テ交換ノ手段トシテ融通スルコトヲ強制スルヲ云ヒ貨幣ノ偽造トハ真正ノ貨幣ノ外觀ヲ有スル物件ヲ製出スルヲ言フモノニシテ其製出セラレタル物件ノ實質カ真正ノ貨幣ニ比較シテ優等ナルト同等ナルト劣等ナルトハ敢テ問フ所ニアラス、但シ其現ニ存スル通貨ノ外觀ヲ有スルコトヲ必要トスルカ又ハ實際眞貨ノ存在セサルニ拘ラス人ヲ通貨ト信セシムヘキ如キ外觀アルモノヲ製作スルヲ以テ足レリトスルカハ議論ノ岐ル所ナリト雖モ實際眞貨ノ存在スルヲ必要トセスト解スル說至當ナリ、貨幣ノ變造トハ真正ノ貨幣ニ人工ヲ加ヘ人ヲシテ他ノ貨幣ナリト信セシムルノ外觀ヲ與フルヲ云フ、行使トハ流通ニ置クト云フノ義ニシテ支拂方法トシ

テ他人ニ引渡ス場合ノミナラス贈與供托凡テノ場合ヲ包含ス行使ノ目的ト云フハ行使ノ遠因ヲ指示スルモノニシテ例ヘハ學術研究ノ參考品トシテ偽造スル如キハ本罪ヲ構成スヘキモノニアラサルヤ明ナリ、
第二項ハ偽造變造ノ通貨ヲ行使セル者ヲ罰スルノ規定ニシテ自ラ之ヲ行使スルト人ニ交付シテ行使セシムルト若クハ行使ノ目的ヲ以テ外國ヨリ之輸入スルト敢テ問フ所ニアラサルナリ、

第四百九條

第四百十九條 行使ノ目的ヲ以テ内國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

偽造、變造ノ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ
【國】 本條一項ハ内國ニ流通スル外國通貨ノ偽造變造罪ニ關スル規定ニシテ茲ニ流通スルト云フハ強制通用ノ効力アルニアラス唯事實上ニ於テ交換

第五百一條

ノ媒介トシテ授受セラル、ヲ云フ第二項ハ偽造變造ニ係ル内國通貨ヲ行使スル罪ニ關スル規定ナリ、

第五百十條 行使ノ目的ヲ以テ偽造變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ取得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

【國】 本條ハ行使ノ目的ヲ以テ偽造變造ノ通貨ヲ取得シタル罪ノ規定ナリ、取得ノ意義ニ關シテハ議論アリ他人ヨリ受取リタル意義ナリト云フモノト他ニ引渡スモノナク竊取拾得セル場合ニ於テモ可ナリト解スルモノナルモ後說ハ寧ロ事理ニ適セルモノト云フヘシ、

第五百十一條

第五百十一條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

【國】 本條ハ通貨偽造罪ノ未遂ヲ罰スル規定ナリ、

第五百十二條

第五百十二條 貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ取得シタル後其偽造又ハ變造ナルコトヲ知テ之ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シタル者ハ其名價三倍以下ノ罰金又ハ科

料ニ處ス但一圓以下ニ降スコトヲ得ス

【要義】 本條ハ偽造變造ノ通貨ヲ收得シタル後ニ於テ情ヲ知リテ之ヲ行使シタル罪ノ規定ニシテ其百五十條ノ罪ト異ル點ハ行使ノ目的ヲ取得ノ事前ニアリシト事後ニ發シタルトノ差アルノミ然レトモ收得ノ後ニ情ヲ知リテ行使シタル者ハ情狀大ニ憐ムヘキモノアルヲ以テ行使ノ目的ヲ以テ取得セル者ニ比シ著シク其刑ヲ減輕セリ。

第三百五十三條

貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ偽造又ハ變造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ準備シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

【要義】 本條ハ貨幣偽造罪ノ豫備ヲ罰スル規定ニシテ本罪ノ如キ社會ニ及ホス危害ノ大ナルモノハ其ノ豫備ノ行爲ヲモ罰スル必要アリト認メタルニ依ル。

文書ノ偽造

第十七章 文書偽造ノ罪

【要義】 本章ハ文書偽造罪ニ關スル規定ニシテ文書偽造トハ證據文書ノ内容外觀ヲ模擬又ハ變更シテ其文書ノ製作者トシテ表示セラレタル者カ全然此ノ如キ意思表示ヲ爲サ、ルニ拘ラス恰モ此ノ如キ意思表示ヲ爲セルカ如キ形式ヲ與フルヲ云フ蓋シ法律カ文書偽造罪ノ規定ヲ設ケテ文書ヲ保護スル所以ノモノハ人ノ權利義務若クハ事實ヲ證明スルニ於テ重大ノ効力ヲ有スルモノアルヲ以テナリ、文書ノ何タルヤニ關シテハ學說岐ルト雖モ文書ハ言語又ハ言語ニ代ル可キ符號ヲ以テ或物ノ上ニ附着セシメタル意思ノ表示ナリト云フモノ最モ其要ヲ得タルモノナラン、從ツテ意思表示ノ準備ニ止マル草案意思表示ノ複製タル騰寫ハ文書ニアラスト云フヲ得ヘク單ニ符號速記法ヲ以テ記載シタルモノト雖モ一定ノ意思ヲ了解シ得ヘキ場合ニ限り文書ト云フコトヲ得ヘシ、但シ單ニ書風書體ヲ主眼トセルモノ、如キハ一個ノ美術品ニシテ文書ニアラス、又下足札番號札ノ如キハ何ノ思想ヲモ表ハスコト

ナキヲ以テ文書ニアラサルコト明ナリ、
 舊法ハ文書ノ偽造ノミヲ罰シ繪畫ノ偽造ヲ豫想セスト雖モ彼ノ檢證調査ニ
 添附スル繪圖ノ如キハ其偽造ヲ防止スルノ必要アルコト普通ノ文書トモ
 異ル所ナキヲ以テ新法ハ文書偽造ナル章下ニ於テ之ニ關スル規定ヲ設ケ
 タリ、舊法ハ文書ヲ偽造シテ行使シタルトキニ於テ初メテ文書ノ偽造罪成立
 スルモノト爲スモ茲モ理由ナキコトナルヲ以テ之ヲ削除シ、又新法ハ舊法ノ
 官文書偽造罪ノ規定ヲ改メテ公文書ニモ適用スルコトヲ得セシメ、公務員ニ
 對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ戸籍其他ノ公正證書ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者
 ヲ罰スル規定ヲ新設セリ、

第四百五十四條

行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽若クハ御名ヲ使
 用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル御璽、國璽
 若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル者ハ
 無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

御璽、國璽ヲ抑捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ
 變造シタル者亦同シ

國璽 本條ハ官文書偽造中詔書偽造ニ關スル罪ノ規定ナリ、元來官文書ニ付
 キテハ廣狹二様ノ意義アリ狹義ノ官文書ハ官吏カ其附與セラレタル權限内ニ
 於テ一定ノ方式ニ依リ作製スル所ノ文書ヲ云フモ廣義ニ於テ官文書ト云フ
 ハ此狹義ノ官文書ノ外ニ詔書及ヒ公證文書ヲ包含ス、詔書トハ天皇ノ御名ヲ
 以テ調製スヘキ文書及ヒ調製シタル文書ヲ云フモノニシテ其名稱ノ勅書、勅
 書諭、詔、宸翰タルト否トヲ問ハス、而シテ本罪ノ構成要件トシテハ詔書其他ノ文
 書ノ偽造アリタルコトヲ要シ、(二)御璽、國璽若シクハ御名ヲ使用シ又ハ偽造ニ
 係ル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シタルコトヲ要シ、(三)行使ノ目的ヲ以テ詔書
 其他ノ文書ヲ偽造シタルコトヲ要スルモノトス、御璽トハ天皇ノ御印ヲ云フ
 モノニシテ傳來ノモノト新製ノモノトニアリ、傳來ノモノハ銅材方曲尺二
 寸七分、明治七年新製ノモノハ金材方曲尺三寸、天皇御璽ノ四字ヲ刻シ法律勅
 令、勅任官ノ辭令書、奏任官ノ任命奏薦書ニ之ヲ鈐ス、國璽トハ日本帝國ヲ表章

スル印ノ義ニシテ金材ヲ以テ作り方二寸九分大日本國璽ト記シ國書條約批准外國派遣官吏委任狀在留各領事承認狀及ヒ勅記ニ之ヲ鈐ス使用シテト云ハ署名又ハ捺印ノ義ナリ文書ノ偽造トハ真正ナル文書ヲ基礎トセスシテ新タニ文書ヲ作製スルコトヲ云ヒ、變造トハ真正ナル文書ヲ基礎トシテ之ニ外觀内容ノ變更ヲ加フルヲ云フ、而シテ偽造變造ニ共通ノ特徴ハ文書ヲ作製セリトシテ表示セラレタル名義人ニ於テ此ノ如キ文書ヲ製作セサリシニ拘ラス之ヲ製作シタリトノ外觀ヲ示ス點ニアリ、行使トハ真正ノ文書タルコトヲ主張シテ其文書ニ表ハレタル證據方法ニ應用スルコトヲ云フモノニシテ其文書カ欺罔セラルヘキ人ノ認識ヲ確メ得ル状態ニ達シタルトキヲ以テ行使ノ既遂アリト云フコトヲ得ヘシ、第二項ハ詔書ノ變造ニ關スル罪ノ規定ナリ、

第五百十五條

行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ

印章若シクハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ公務所又ハ公務員ノ作りタル文章若クハ圖畫ヲ變造シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

【釋義】 本條ハ狹義ノ官文書偽造ト公文書ノ偽造罪ニ關スル規定ナリ公文書トハ公務署又ハ公務員カ公法上ノ權力關係ニ於テ職務上作製スル文書ヲ云フ、第一項ハ公務署又ハ公務員ノ印章署名ヲ不正ニ使用シテ官吏公吏其他公

務ニ從事スル職員ノ作ルヘキ文書若クハ繪圖ヲ偽造シ又ハ偽造シタル是等ノ印章署名ヲ使用シテ公務員ノ作ルヘキ文書若クハ繪圖ヲ偽造シタル場ニ關シ第二項ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ繪圖ヲ變造シタル場合ニ關スル規定ナリ第三項ハ前二項以外ノ手段ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ作ルヘキ文書若クハ繪圖ヲ偽造シ若クハ其作りタル文書若クハ繪圖ヲ變造シタル場合ニシテ別ニ印章署名ヲ使用スルコトナキヲ以テ危害ノ結果重大ナラズ其情狀モ亦輕キモノナルカ故ニ前二項ニ比シ其刑ヲ減輕セリ

第五百五十六條

公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虚偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ文書若クハ圖畫ヲ變造シタルトキハ印章署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル

本條ハ公務員カ其職務ニ關シテ虚偽ノ文書ヲ作りタル場合及ヒ不正ニ文書ヲ變造シタル場合ニ關スル罪ノ現定ナリ

第五百五十七條

公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ權利義務ニ

關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ免狀鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲナシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條第一項ハ公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲナシ戸籍簿登記簿其他權利義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル場合ニシテ舊法ハ全ク之ニ關スル規定ヲ缺キタル爲メ其解釋區々ニ分レ或ハ之ヲ文書偽造罪ニ間ヒ或ハ之ヲ無罪ト爲セリ故ニ新法ハ明文ヲ設ケテ是等ノ疑義ヲ避クルコトニ爲シタリ

第二項ハ公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ免狀鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲナシメタル場合ノ規定ニシテ是レ亦明文ヲ設ケテ舊法ノ缺點ヲ補ヘリ前

二項ノ規定未遂ノ場合ハ印章偽造罪ニ問フヘカラサルヲ以テ第三項ノ規定ヲ設ケテ之ヲ罰スルコトヲ規定シタルモノトス

第五百十八條

前四條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虛偽ノ文書若クハ不實ノ記載ヲ爲シシメタル者ト同一ノ刑ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

圖圖 本條ハ偽造變造ノ詔書、官文書、公文書又ハ圖畫ノ行使罪ニ關スル規定ニシテ其行使者ハ文書又ハ圖畫ノ偽造者變造者ト同一ノ刑ニ處スヘキモノトナシタリ

第五百十九條

行爲ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ノ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以上ノ罰金ニ處ス

圖圖 本條ハ所謂私書偽造罪ニ關スル規定ニシテ私書トハ私人ノ作製スル證據文書ヲ云ヒ權利義務ニ關スモノト事實ノ證明ニ關スルモノトノ二種アリ權利義務ニ關スル證書トハ他ノ據様方法ヲ借ラスシテ直接ニ法律上ノ効

果ヲ發生セシムル所ノ効力アル事實ヲ證明シ得ヘキ文書ニシテ例ヘハ遺言
 證書貸借證書賣買申込證書等ハ其重ナルモノナリ事實ノ證明ニ關スル文書
 トハ直接法律上ノ効果ヲ發生セシムルノ効力アル事實ニ關セラル文書ナリ
 第一項ハ他人ノ印章若クハ署名又ハ偽造ニ係ル他人ノ印章若クハ署名ヲ使
 用シテ文書圖書ヲ偽造シタル場合ニ關シ第二項ハ他人ノ印章ヲ捺印シ若ク
 ハ他人ノ署名シタル文書圖書ノ變造罪ニ關シテ規定ヲ設ケタリ第三項ハ他
 人ノ印章若クハ署名ヲ使用スルコトナクシテ私書ヲ偽造變造シタル罪ノ規
 定ニシテ危害比較的ニ少ナク情狀亦恕スヘキモノアルヲ以テ前二項ニ比シ
 テ其刑ヲ減輕セリ、

第六十條

第六十條 醫師公務所ニ提出ス可キ診斷書檢案書又ハ死
 亡證明書ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ禁錮
 又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

醫圖 本條ハ醫師カ診斷書檢案書又ハ死亡書ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル所爲

ヲ罰スルノ定ナリ、

第六十一條

第六十一條 前二條ニ記載シタル文書又ハ圖書ヲ行使シ
 タル者ハ其文書又ハ圖書ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虛偽ノ
 記載ヲ爲シタル者ト同一ノ刑ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之罰ス

本條ハ前二條ニ記載シタル文書圖書ノ行使ニ關スル規定ニシテ本條ニ於テ
 ハ單ニ行使シタル者ハ偽造又ハ變造シタル者又ハ不實ノ記載ヲ爲シタル者
 ト同一ノ刑ニ處スルコト、爲シ本條ノ未遂ニ付キテモ之ヲ罰スルコトノ規
 定ヲ設ケリ、

有價證券
偽造ノ罪

第十八章 有價證券偽造ノ罪

要義 本章ハ有價證券ノ偽造ニ關スル罰ノ規定ヨリ有價證券ノ何タルヤニ
 關シテハ學者ニ依リテ大ニ其說ヲ異ニスル所ナレトモ賣買價格ヲ有スル流

第二編 第十八 有價證券偽造ノ罪

二百二十一

通證券ト解シテ不可ナルヘシ、流通證券トハ裏書交付又ハ交付ヲ以テ讓渡セラル、證券ノ義ニシテ公債證書、官府ノ證券會社ノ株式等ハ其重ナルモノナリ、舊法ハ私書偽造罪ノ規定中ニ有價證券ニ關スル規定ヲ受ケタリト雖モ有價證券ハ直接ニ財産上ノ利益ヲ目的トスルモノニシテ特別ノ性質ヲ有シ他ノ文書偽造罪ト區別スル必要アルヲ以テ文書偽造罪中ヨリ有價證券ニ關スル部分ヲ抽出シ之ニ修正ヲ加ヘテ獨立ノ一章トナセリ、

第六十二條

行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官府ノ證券、會社ノ持株券其他ノ有價證券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス
行使ノ目的ヲ以テ有價證券ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタル者又同シ

釋義 本條ハ有價證券ノ偽造ニ關スル罪ノ規定ニシテ本罪ノ成立ニハ(一)有價證券タルコト(二)有價證券ヲ偽造又ハ變造シタルコト(三)行使ノ目的ヲ以テ

第六十三條

偽造變造シタルコトノ三要件ヲ必要トス公債證券トハ國債ニ對シテ發行スル證券ニシテ例ヘハ金祿公債、整理公債、軍事情債等ノ如シ、官府ノ證券トハ公債以外ニ政府ノ發行スル總テノ有價證券ヲ總稱ス、株式會社又ハ株式合資會社ニ於テ株式ニ對シテ發行スル證券ニシテ之ニ依リテ株主タル權利ヲ表彰スルモノナリ、第二項ハ唯證券ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタル者ト雖モ同一ニ處斷スルコトヲ定メタリ、舊法ハ爲替手形ニ虛偽ノ裏書ヲ爲シタル場合ノミニ想像スレトモ狹キニ失シ、時世ニ適合セサルヲ以テ新法ハ一般ノ有價證券ニ通シテ之ヲ規定セリ、

第六十三條 偽造變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

國璽 本條ハ偽造變造ノ有價證券ヲ行使シタル者ヲ罰スルノ規定ナリ、特ニ輸入シタル場合ニモ之ヲ適用スル所以ハ是等ノ物タル信用經濟ノ發達ト共ニ殆ント貨幣ノ代用ヲ爲スコトアルヲ以テ貨幣紙幣又ハ兌換銀行ノ場合ト均シク輸入ニ關スル規定ヲ設ケタリ、

印章偽造ノ罪

第十九章 印章偽造ノ罪

國璽 本章ハ印章偽造罪ノ規定ナリ、印章トハ印影ノ義ニシテ印影トハ或事實ヲ證明スル用ニ供スル爲メ或物體ノ一面ニ存在スル一定ノ形狀印影ヲ他ノ物體ニ押捺シテ顯出セシメタル一定ノ影蹟ヲ云フ、印章ハ人ノ信用ニ重大ノ關係ヲ有スルモノナルヲ以テ其偽造ハ社會ニ實害又ハ其實害ノ危險ヲ與フルコト大ナリ、故ニ法律ハ刑罰ナル制裁ヲ以テ是等ノ所爲ヲ防遏セントシタリ、舊法ハ官印偽造罪ニ付テハ各其偽造又ハ使用ノ行爲ヲ罰シタリ、新法モ亦印章偽造罪ニハ偽造ナル一行爲ヲ以テ成立ノ要件ト爲スコト舊法ト同一ナリト雖モ其偽造印ヲ使用シテ文書ヲ偽造シタル場合ハ之ヲ文書偽造罪中

第六十四條

第六十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ偽造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル御璽、國璽又ハ御名ヲ使用シタル者亦同シ

國璽 本條第一項ハ御璽、國璽、御名ノ偽造罪ニ關スル規定ニシテ(一)偽造ノ客體ハ御璽、國璽、御名ナルコトヲ要シ(二)偽造シタルコトヲ要シ(三)行使ノ目的ヲ

以テ偽造シタルコトヲ要ス、偽造トハ貨幣偽造ノ場合ニ述ヘタルカ如ク無權者カ使用ノ目的ヲ以テ新物ヲ摸擬スルノ意ナリ、

第二項ハ御璽、國璽、御名ヲ盗用シ又ハ偽造シタル御璽、御名ヲ行使シタル者ノ罪ニ關スル規定ナリ、不止ニ使用ストハ舊法ノ盗用ト云フト同義ニシテ職權ナキ者又ハ職權アル者カ職權以外ニ印影ヲ使用スルコトヲ云フモノナリ、即チ眞ノ印類ヲ盗取又ハ騙取シテ之ヲ自己カ押捺スルヘキ職權ヲ有セサル書類其他ノ物件ニ押捺スルカ又ハ既ニ印章ヲ押捺シタル白紙ニ記載スヘカラスル事項ヲ記載スルカ又ハ正當ニ押捺サレタル印影ヲ切り取りテ之ヲ使用スヘカラサル書類其他ノ物件ニ貼付スカヲ意味ス、偽造ノ御璽、國璽又ハ御名ヲ使用スト云フハ偽造ノ捺印署名アル物件ヲ眞正ノ捺印署名アル如ク主張シテ行使スルヲ云フ、

第六十五條

第六十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第六十六條

公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

國璽 本條ハ公務所、公務員ノ印章署名ノ偽造、盗用行使罪ニ關スル規定ナリ、

第六十六條 行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス、公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所ノ記號ヲ使用シタル者亦同シ

國璽 本條ハ公務所ノ記號ヲ偽造シ、盗用シ、又ハ行使シタル罪ノ規定ニシテ記號トハ發音スヘカラサル符合ヲ印類ヲ以テ現出セシメタル形影ニシテ之ヲ產物、商品等ニ押捺シテ產物ノ出所又ハ商品ノ精粗ヲ證明スルノ用ニ從スルモノナリ、

第六十七條

第六十七條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若シクハ署名ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス、他人ノ印章若ク

ハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

○**隱匿** 本條ハ所謂私印偽造行使ノ罪ノ規定ニシテ前數條ノ說明ニ依リテ意義明ナレハ茲ニ再說セス、

第六十八條 第六十四條第二項、第六十五條第二項、第六十六條第二項及ビ前條第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○**隱匿** 本條ハ印章偽造罪ノ未遂犯ヲ罰スル規定ナリ、

第二十章 偽證ノ罪

○**隱匿** 本章ハ偽證罪ニ關スル規定ニシテ所謂偽證トハ證人トシテ宣誓ノ上ニ不實ノ陳述ヲナスヲ云フ、刑法カ偽證罪ノ規定ヲ設ケタル所以ノモノハ之ニ依リテ證人ノ眞實ナル供述ヲ強制シ有限ノ司法機關ヲシテ無限ノ司法事務ヲ取扱フ上ニ於テ過失ナラシメント期シタルニ外ナラス、舊法ハ偽證罪ニ付キ

刑事ニ關スル證人ト民事商事又ハ行政裁判ニ關スル證人トヲ區別セリト雖モ是レ畢竟偽證シタル刑事ノ證人ニ對シテ科スヘキ刑ニ付キ詳細ナル區別ヲ爲シタル結果ニ過キス、然ルニ新法ハ刑事ニ關スル證人ノ偽證ニ科スヘキ刑ヲ變更シタルヲ以テ刑事ト他ノ民事、商事又ハ行政事件トヲ區別スルノ必要消滅シタリ、故ニ新法ニ於テハ司法裁判所ニ於テスルト行政裁判所ニ於テスルト其他ノ特別裁判所ニ於テスルヲ問ハス證人トシテ偽證シタル場合ニ關シ同一ノ規定ヲ設ケタリ、舊法ハ刑事ニ關スル偽證ヲ分チ被告人ヲ曲庇スル目的ニ出テタルト之ヲ陷害スル目的ニ出テタルコトヲ區別シテ其刑ヲ異ニシ又偽證ニ因リ被告人正常ノ刑ヲ免レタルトキハ曲庇ノ刑ニ一等ヲ加重シ或ハ偽證ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタルトキニ於テハ反坐ノ刑ヲ科スル等罪ノ情狀ニ因リ細密ノ規定ヲ設ケタリト雖モ適用上却テ不便ヲ生スルヲ以テ新法ハ總テ是等ノ情狀ハ裁判官ノ認定ニ一任シ適宜ノ刑ヲ科スルコトヲ得セシメント期シ是等ノ煩雜ナル規定ハ總テ之ヲ削除セリ、

第六十九條 法律ニ依リ宣誓シタル證人虛偽ノ陳述ヲ爲

シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

【釋義】 本條ハ偽證罪ニ關スル規定ニシテ本罪ノ成立ニハ(一)法律ニヨリ宣誓ヲ命セラレタル證人タルコト(二)虛偽ノ陳述ヲ爲シタルコトヲ必要トス、法律ニ依リ宣誓ヲ命セラレタル證人トハ法律ノ命スル所ニ因リ宣誓シテ證人タル者即チ司法裁判所、行政裁判所又ハ其他ノ裁判所ノ命ニ因リ宣誓シテ證人トナリタル者ヲ云フ、故ニ例ヘハ司法警察官ノ違法ノ命令ニ依リ宣誓ノ上不實ノ陳述ヲ爲スモ本罪ヲ構成セス、宣誓トハ證人カ判事ノ面前ニ於テ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ黙秘セス又何事ヲモ附加セサリシ旨ノ誓ヲ宣フルコトヲ云フ、證人トハ特定ノ訴訟事件ニ於テ或事實ニ付キ自己ノ實驗ニ關シ訊問ヲ受クル爲ニ裁判所ニ呼出サレタル第三者ヲ云フ、虛偽ノ陳述トハ證人カ實在セサル記憶ヲ構造シ又ハ實在スル記憶ヲ掩蔽シ若クハ之ヲ變更シテ答辯スルヲ云フ、而シテ虛偽ノ陳述ハ被害ヲ曲庇スル目的ニ出テタルト陷害スル目的ニ出テタルトヲ問ハス、自己ヲ利スル目的ニ出テタルト否ラサルトヲ論セス、陳述ト云フ故ニ沈黙シテ一言モ發セサルモノハ偽證ノ罪ト成ラス、

百七十條

百七十條 前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判

確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得

【釋義】 本條ハ偽證罪ヲ犯シタルモノノ自首ニ關スル規定ナリ、舊法ハ偽證罪ノ自首ニ付キテハ其事件ノ裁判宣告前自首スルトキハ本刑ヲ免スルコトヲ規定セリト雖モ本法ニ於テハ其事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前被告人カ偽證シタルコトヲ自白スレハ其刑ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得ト改メタリ、是レ一方ニ於テハ自首以外ノ自白ニモ刑ヲ輕減スルヲ以テ其減輕ノ程度ヲ減却シタルモノナリ

百七十一條

百七十一條 法律ニ依リ宣誓シタル鑑定人又ハ通事虛偽

ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルトキハ前二條ノ例ニ同シ

【釋義】 本條ハ鑑定人又ハ通事ノ偽證罪ニ關スル規定ニシテ鑑定人トハ裁判所カ民事又ハ刑事ノ訴訟ニ付キ或事實ノ鑑定ヲ爲サシムル爲ニ選定任命シ

タル者ヲ云ヒ鑑定トハ或ル人ノ有スル特別ノ智識ニ依リ或ル事實ノ判斷ヲナスコトヲ云フ、通事トハ通辨又ハ通譯ト云フニ同シ對話者間ニ立チテ意思ノ交換ヲ媒介スル者ヲ總稱ス、彼ノ聲者啞者ノ意ヲ通スル者モ亦此中ニ含ムト知ルヘシ、

誣告ノ罪

第二十一章 誣告ノ罪

總論 本章ハ誣告罪ノ規定ニシテ誣告罪トハ犯罪ノ事實ニ關シ犯罪搜查權アル者ニ不實ノ申告ヲ爲ス罪ニシテ刑法ニ於テ之ヲ罰スル所以ノモノハ他人ニ關スル不實ノ事項ヲ申告シテ司法ヲ誤ラシメ且ツ他人ノ名譽信用ヲ毀損シタルカ故ナリ、學者或ハ誣告罪ノ客體ヲ以テ誣告セラレタル個人ナリトシ或ハ法ノ秩序ナリト論スルモノアリト雖モ其雙方ニ對スル罪ナリト解スル方寧ロ至當ナラン、舊法ハ他人ヲシテ行政上ノ懲戒處分ヲ受ケシムル爲ニ誣告ヲ爲シタル罪ノ規定ヲ缺クヲ以テ本法ニ於テ之ヲ増補シ、舊法ハ誣告罪ヲ身體ニ關スル罪中ニ規定セシモ本罪ハ寧ロ信用ニ關スル罪ナルヲ以テ本

第七十二條

第七十二條 人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虛偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ第七十九條ノ例ニ同シ

ニ同シ

總論 本條ハ誣告罪ノ意義ヲ定メタルモノニシテ他人ヲシテ刑罰又ハ懲戒處分ヲ受ケシムルノ目的ヲ以テ官ニ對シ不實ノ申告ヲ爲シタルモノハ偽證罪ト同一ノ例ニ依リテ處斷スヘキコトヲ明ニセリ、而シテ本罪ノ成立要件トシテハ(一)虛偽ノ申告ヲ爲シタルコト(二)陷害ノ目的ヲ以テ虛偽ノ申告ヲ爲シタルコトヲ要ス、虛偽ノ申告ト云フハ不事ノ告訴又ハ告發ト云フニ同シ犯罪ノ搜查權アル者ニ申告シタル者ニアラサレハ罪トナラス、申告ト云フ故ニ自ラ發意シタルモノナラサルヘカラス、官署ノ訊問ヲ受クルニ當リ他人ニ關スル不實ノ陳述ヲ爲スハ申告ニアラス、申告ノ内容ハ客觀的ニ事實ニ反スルコ

トヲ要ス、目的ヲ以テト云フ故ニ刑事上訴追スルコト能ハサル人ニ對シテ之ヲ爲スモ本罪成立ス、例ヘハ十四歳未滿ノ者ヲ罪ニ陷レントシテ十四歳未滿ノ或幼者カ罪ヲ犯シタリト起訴シタリトスレハ其幼者ハ刑事上訴追シ能ハサル者アルモ之ニ對シテ誣告罪成立シ得ヘシ、

第三百七十三條

前條ノ罪ヲ犯シタル者申告シタル事件ハ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

四圍 本條ハ誣告者ノ自白ニ關スル規定ニシテ其趣旨ハ偽證罪ニ付キテ説明シタル所ト同一ナリ、

第二十二章 猥褻姦淫及ヒ重婚罪

第三百七十四條

四圍 本條ハ猥褻、姦淫、重婚ノ所爲ヲ罰スル規定ニシテ猥褻トハ色情ヲ挑發又ハ満足セシムル行爲ヲ總稱シ、姦淫トハ男女ノ交媾ヲ指シテ云フモノナリ、

第三百七十四條

重婚トハ夫婦關係ノ消滅セサル以前ニ更ニ新ナル夫婦關係ヲ締結スルコトヲ意味ス、是等ノ行爲ハ社會ノ風俗ヲ紊亂シ人心ヲ腐敗セシメ若クハ一家平和ノ基礎ヲ破壞スルノ原因トナルモノナルヲ以テ刑法ハ刑罰ヲ設ケテ亂倫壞俗ノ惡事ヲ防遏セントセリ、本章ノ規定ハ舊法ノ規定ト大差ナシト雖モ第百七十五條ニ於テ頒布ナル文字ヲ加ヘ猥褻ノ文書圖書ヲ公然販賣スルノ外廣ク公衆ニ分ツコトヲ禁シ、第百七十八條ニ於テ被害者ノ精神障害若クハ抗拒不能ナル場合ニ關スル規定ヲ新設シ、又舊法ハ本章ノ罪ハ被害者又ハ親屬ノ告訴ヲ待テ論スルコト、ナスト雖モ本法ハ之ヲ改メ單ニ其告訴ヲ待チテ論スト規定シ其告訴權利者ノ何人ナルヤハ刑事訴訟法及ヒ民法ノ規定ニ依リテ定メント期シ爰ニ明示セサルコトトナセリ、

四圍 本條ハ公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

多數人ニ知覺セラルヘキ状態ニ於テト云フ義ニシテ例ヘハ公園ノ只臺ハ勿論家屋内ト雖モ公衆ノ耳目ニ觸ル、如キ場所ナレハ公然ト云フコトヲ得ヘシ

第七百七十五條

但シ公衆カ實際其猥褻ノ行爲ヲ目撃シタルト否トハ本罪ノ構成ニ關セス目撃シ得ル狀態ニアレハ足レリ猥褻ノ行爲トハ前述セル如ク色慾ヲ挑發シ又ハ満足スル舉動ヲ云フ、

第七百七十五條

猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物ヲ頒布若クハ販賣シ又ハ公然之ヲ陳列シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者亦同シ

要義 本條ハ猥褻ノ文書、圖畫ヲ販賣頒布陳列シタル者ヲ罰スル規定ナリ、猥褻ノ文書、圖畫トハ猥褻ナル物品ノ類例ヲ示スモノニシテ猥褻ノ物品トハ色情ヲ挑發シ又ハ満足セシムルニ足ル物ヲ意味ス、頒布ストハ代價ヲ受ケスシテ配布スルコトヲ云フ、公然之ヲ陳列スト云ハ公衆ノ目ニ觸ル所ニ置クノ義ニシテ必スモ數個ノ物品ヲ排列スルヲ要セス、

第七百七十六條

十三歲以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ

處ス十三歲ニ滿タサル男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同シ

要義 本條ハ特定ノ男女ニ對シテ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル場合ノ規定ニシテ二個ノ場合ヲ區別シ得ヘシ(一)十三歲以上ノ男女ニ對シテ暴行脅迫ヲ加ヘテ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル場合ニシテ(二)十三歲ニ滿タサル男女ニ對シテ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル場合即チ之ナリ、刑法ハ何故ニ十三歲以上ナルト未滿ナルトニ依リ暴行脅迫ノ有無ヲ區別シタルカ蓋シ十三歲未滿ノ幼者ハ色情未タ發達セス猥褻ノ行爲ノ何タルヤヲ了解セサルヲ以テ假令承諾ヲ與フルモ其承諾タルヤ眞實ノ承諾ニアラスシテ春事ヲ解スル者ニ對シテ暴行脅迫ヲ加ヘテ猥褻ノ行爲ヲナシタルト同一視スヘキモノト看做シタルヲ以テナリ又法律ハ十三歲以上ノ男女ハ多少春事ヲ解スルト看做シ暴行脅迫ニ依ル場合ノ外ハ合意ニ依リテ猥褻ノ行爲ヲ爲サシメタルモノトシ之ヲ不問ニ附セリ、

第七百七十七條

暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歲以上ノ婦女ヲ姦

淫シタル者ハ強姦ノ罪ト爲シ二年以上ノ有期懲役ニ處ス
十三歳ニ滿タサル婦女ヲ姦淫シタル者亦同シ

【釋義】 本條ハ強姦淫ノ規定ニシテ強姦トハ暴行脅迫ノ手段ヲ以テ被姦淫者ノ抵抗力ニ打克チ姦淫ヲ遂ケタルヲ云フ、十三歳未滿ノ婦女ニ付キテハ前條述ヘタル理由ニ依リ暴行脅迫ノ有無ニ拘ラス強姦罪ヲ以テ論スヘキモノトス、

第七十八條

第七十八條 人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメテ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタル者ハ前二條ノ例ニ同シ

【釋義】 本條ハ人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ノ狀態ニ乘シ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタル者ノ罪ノ規定ニシテ單ニ猥褻ノ行爲ヲ爲シタルニ止マル者ハ第七十六條ノ例ニ依リテ處斷シ姦淫シタル者ハ強姦罪ヲ以テ論スヘキモノトス、蓋シ婦女ガ昏醉狀態ニ陥リ若クハ其他ノ原因ニ依リ抵抗能力ヲ失ヒ

第七十九條

第七十九條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

【釋義】 本條ハ猥褻姦淫罪ノ未遂ヲ罰スル規定ナリ、

第八十條

第八十條 前四條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

【釋義】 前ニ述ヘタル故再說セス、

第八十一條

第八十一條 第七十六條乃至第七十九條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

【釋義】 本條ハ猥褻姦淫ノ行爲ニヨリテ人ヲ死傷ニ致シタル罪ノ規定ナリ、舊法ハ本章ノ罪ヲ犯シ強姦以外ノ行爲ニヨリ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ創傷ノ罰ニ比シ重キニ從イテ處斷シ強姦ニヨリ人ヲ死ニ致シタルトキハ特ニ刑

ヲ設ケタリト雖モ本法ニ於テハ強姦ニ依ルト否ラサルトヲ區別セス第七十六條乃至第七十九條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ特ニ刑ヲ設ケ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處スルコト、セリ是レ通常ノ傷害罪ニ比シ其情狀重キモノアルヲ以テナリ、

第二百八十二條

營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

【釋義】 本條ハ婦女ノ淫行ヲ媒合スル罪ノ規定ナリ、抑モ世上多クノ婦女ガ貞操ニ對スル觀念ヲ破リ淫行ヲ肆ニスルニ至ルハ多クハ男女間ニ立チテ之レガ媒合ヲナス者アルニ依ル者ニシテ殊ニ營利ノ目的ヲ以テ婦女ヲ誘勸シ遂ニ淫事ヲ馴致セシムルモノ多キニ依ルモノナルヲ以テ刑法ハ此規定ヲ設ケテ如上ノ惡習ヲ防止セントシタリ、淫行ト云フハ猥褻ノ行爲ト云フ意ニアラスシテ男女ノ交合ノ義ナリ、淫行ノ常習ナキ者トハ操行ノ修マレルモノヲ云フ

第二百八十三條

有夫ノ婦姦通シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相姦シタル者亦同シ
前項ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但本夫姦通ヲ縱容シタルトキハ告訴ノ効ナシ

【釋義】 本條ハ姦通罪ニ關スル規定ナリ、姦通トハ有夫ノ婦ガ本夫以外ノ男子ト交接スルコトヲ云フモノニシテ夫婦トハ法律上有効ナル婚姻ヲ爲シタル男女ヲ云フ、而シテ婚姻ハ届出ニ依リテ初メテ法律上ノ効力ヲ生スルヲ以テ假令事實上夫婦ト看做スベキモノト雖モ届出ヲ缺クトキハ法律上之ヲ夫婦ト稱スルコトヲ得ス從ツテ姦通罪成立スルコトナシ、姦通罪ハ本夫ノ告訴ヲ以テ論ス、蓋シ姦通ノ罪ヲ審理辯論スルニ當リテハ夫ノ名譽ヲ毀損スルノ虞多カルヘキヲ以テナリ、但シ本夫ニ於テ姦通ヲ從容シタルトキハ自ら求メテ姦通ヲ爲サシメタルモノナルヲ以テ之ニ告訴權ヲ與フル必要ナシ、

第二百八十四條 配偶者アル者重ネテ婚姻ヲ爲シタルトキハ

第二百八十四條

一、二年以下ノ懲役ニ處ス其相婚シタル者亦同シ

【釋】 本條ハ重婚罪ニ關スル規定ナリ、重婚トハ配偶者ノ一方カ其夫婦關係ノ消滅セサル以前ニ於テ他ノ男子若クハ女子ト結婚スルコトヲ言フモノニシテ後ノ結婚ニ付キ届出ヲナシタル時ニ重婚罪成立ス、其以前交接ノアリタルト否トハ問フ所ニアラス、

賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

第二十三章 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

【釋】 本章ハ賭博及ヒ富籤ニ關スル罪ノ規定ニシテ此種ノ行爲ハ偶然ノ出來事ニ依リテ財産上ノ利益ノ得喪ヲ目的トスル者ナルヲ以テ自ラ人民ノ射倖心ヲ挑發セシメ怠惰ノ氣風ヲ養成シ國家産業ノ發達ヲ妨ケ經濟ノ安固ヲ攪亂スルニ至ルヘキヲ以テ法律ハ刑罰ヲ制裁トシテ此種ノ行爲ヲ禁止セリ、然レトモ賭博モ常習トシテ之ヲ爲スモノニアラサル限リハ其弊害大ナラサルヲ以テ本法ニ於テハ常習トシテ爲ス者ト否ラサルモノトニ區別シ常習トシテ爲サル者ニ付キテハ唯情狀ニ依リ罰金ヲ課スルコトヲ得ルモノト爲シ

第百八十五條

第百八十五條 偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事

ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラス

【釋】 本條ハ賭博ニ關スル規定ニシテ偶然ノ輸贏トハ關係者ノ確知セサル事實ニ因リ勝敗ヲ決スルコトヲ言フモノニシテ必スシモ未來ノ事實ナルヲ必要トセス、又不定ノ事實ナルヲ要セス、關係者カ賭ヲ爲ス當時ニ於テ勝敗ノ根據トナル事實ヲ知ラサレハ可ナリ、財物トハ有體物ノ義ニシテ質權債權ノ如キ無體物ヲ包含セス、但シ有價證券ハ權利ノ證券ニ化體シタルモノト看做サル、ヲ以テ財物ト稱シ得ヘク又無記名債權ハ民法ノ規定ニ依リ動産ト看做スカ故ニ財物中ニ包含スルモノト解スヘシ、賭スルト云フハ賭博ノ目的トシテ或物ヲ供給スヘキ意思ノ表示ナ

博戯トハ當事者カ利益ノ取得ヲ重ナル目的トシテ偶然ノ出來事ニ依リ勝敗ヲ決スル場合ヲ指シ、賭事トハ自家ノ所信ヲ強ムルカ爲ニ勝敗ヲ試ムルヲ云フ、例ヘハ碁ヲ圍ムモノカ自身必ス相手ニ勝ツヘシトノ所信ヲ確ムル爲ニ財物ヲ賭スルカ如キ之ナリ、然レトモ其勝敗カ全然又ハ主トシテ其人ノ熟練、技量ニ依リテ決セラルヘキモノハ術戯ニシテ賭博ニアラス、以上ノ所爲アル者ハ刑法ニ於テ賭博ノ罪トシテ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處スト雖モ單ニ一時ノ娛樂ノ爲ニ物品ヲ賭シタル者ハ敢テ國民ノ射倖心ヲ挑發シ國民ノ怠惰心ヲ養成スルコトナキヲ以テ之ヲ處罰スルノ必要ナシトシテ但書ノ規定ヲ設ケタリ、

第六十八條

第百八十六條 常習トシテ博戯又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ二
年以下ノ懲役ニ處ス
賭博場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ二

月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

圖 本條第一項ハ或機會ニ於テ賭博ヲ爲スニアラス常習トシテ賭博ヲ爲ス者ヲ所罰スルノ規定ニシテ前者ニ比シテ犯情惡ムヘキモノアルヲ以テ其刑ヲ加重シテ三年以下ノ懲役ト爲シタリ、常習トシテト云フハ常業トシテ生活スル意味ナリ、

第二項ハ普通ニ所謂博徒ノ親分ヲ罰スルノ規定ニシテ是等ノ徒ノ行爲カ社會ニ及ホス危害ハ博賭ヲ常習トスル者ニ比シテ一層大ナルモノアルヲ以テ特ニ其刑ヲ加重シテ三月以上五年以下ノ懲役ト爲シタリ、博徒トハ一定ノ職業ヲ有セス賭博ヲ以テ世ヲ渡ル無賴ノ徒ヲ云フ、前條常習トシテ賭博ヲ爲スト云フハ即チ之ナリ、賭博場ヲ開張シテ利ヲ圖ルトハ賭博ヲ行フヘキ場所ヲ開キ博徒ヲ誘引シテ假ニ云フ寺錢ヲ徵收スルコトニシテ、結合シテトハ博徒ヲ招集シテ自己ノ配下ニ團體ヲ組織スルヲ云フ、本法ニ於テ情ヲ知リテ房屋ヲ給與シタル者ヲ罰スル規定ヲ削除セル所以ノモノハ斯ノ如キハ從犯トシテ總則ノ規定ニ因リ當然處分シ得ヘキモノナレハナリ、

第七條
第八十

第三百八十七條 富籤ヲ發賣シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ

三千圓以下ノ罰金ニ處ス

富籤發賣ノ取次ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ徵役又ハ二千

圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ外富籤ヲ授受シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ

科料ニ處ス

總論 本條ハ富籤ヲ罰スル規定ニシテ富籤トハ關係者ノ一方(富籤購買者)カ
無條件ニテ一定ノ財物ヲ提出シ之ニ對シテ他ノ一方カ(富籤興行元)カ抽籤ノ
方法ヲ以テ豫定ノ金錢又ハ其他ノ支拂ヲナス契約ヲ云フ而シテ無條件ニテ
財物ヲ提出スルト抽籤ノ方法ニ依ル點ハ賭博ト異ル所アレトモ偶然ノ出來
事ニヨリ財産上ノ利益ノ得喪ヲ目的トスル點ニ於テハ兩者毫モ異ル所ナシ
從ツテ國民ノ射倖心ヲ挑發シ怠惰ノ風習ヲ養スル點モ賭博ト撰フ所ナキヲ
以テ法律ハ同一ノ刑ヲ課シテ之ヲ禁止シタリ第一項ニ於テ富籤ノ興行元ヲ

罰スル規定ヲ設ケ第二項ニ於テ富籤ノ取次周旋ヲ爲シタル者ノ處分ヲ定メ
第三項ニ於テ單ニ受ケ渡シヲ爲シタル者ニ關シテ規定シタリ授受トハ受渡
ノ義ニシテ賣買タルト贈與タルトヲ問ハス、

第二十四章 禮拜所及墳墓ニ關スル罪

四國 本章ハ禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪ヲ規定シタルモノニシテ舊刑法第
二編第七章及ヒ第二百六十三條ヲ合シ少シク之ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ、
法律カ神祠佛堂墓所其他禮拜所ニ對スル不敬ノ行爲ヲ罰スル所以ノモノハ
是等ノ行爲ハ信仰ノ主體タル神佛ノ尊嚴ヲ汚瀆シテ國民ノ宗教心ヲ防害ス
ルニコト大ナルモノアルカ爲ナリ、法ハ神佛其者ヲ保護スルニアラスシ神佛
ニ對スル不敬ノ所爲ヲ罰シテ宗教上ニ關スル風教ヲ維持セント期シタルニ
外ナラス、故ニ隱然不敬ノ行爲ヲ爲スモ風教ノ維持ニ防害ナキヲ以テ之ヲ罰
セス公衆ノ耳目ニ觸ル、場所ニ尊嚴ヲ汚瀆セルトキニ於テ之ヲ罰スヘキモ
ノトセリ、

第二編 第二十四章 禮拜所及墳墓ニ關スル罪

禮拜所及
墳墓ニ
關スル罪

第八十八條

神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アリタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下罰金ニ處ス
說教、禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

○圖 本條第一項ハ禮拜所ニ對スル不敬ノ行爲ヲ罰スル規定ニシテ禮拜所トハ公衆ノ禮拜ニ充テラレタル場所ヲ云フ、其禮拜ノ主體カ神佛耶蘇ナルト天理教ナルトヲ問ハス不敬ノ行爲ト云フハ尊嚴ヲ汚瀆スル行爲ヲ總稱ス、第二項ハ說教禮拜葬式ヲ妨害シタル罪ノ規定ニシテ此種ノ行爲ハ亦宗教上ノ風教ヲ害スルコト、前項ノ罪ニ比スレハ比較的輕微ナルヲ以テ其刑ヲ減輕セリ、

第八十九條

墳墓ヲ發掘シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

○圖 本條ハ墳墓發掘ノ罪ノ規定ナリ墳墓トハ死屍ヲ埋葬シタル場所ト云フ義ニシテ發掘トハ掘出スト云フト同シ、本罪モ國民ノ宗教心ヲ維持センカ爲ニ設ケタルモノナレハ彼ノ改葬ノ爲メ墳墓ヲ發掘スル如キハ固ヨリ本罪ヲ構成スルコトナシ、

第九十條

死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

○圖 本條ハ死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ毀棄シ若シクハ不正ニ奪取シタル行爲ヲ罰スル規定ニシテ其犯情前條ノ場合ニ比シテ重キモノアルヲ以テ其刑ヲ重クセリ、本條ノ罪モ固ヨリ宗教的の信念ニ關スル罪ナルヲ以テ其信念ヲ傷害セサル以上ハ假令死體ヲ毀損スルモ罪ヲ構成スルコトナシ、譬ヘハ埋葬ノ方法トシテ死體ヲ火葬ニ附シ死因確定ノ爲メ之ヲ解剖ニ付スルカ如キ固ヨリ罪トシテ論スヘキモノニアラス、

第九十一條

死體、遺骨、遺髮又ハ

棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞遺棄又ハ領得シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

圖圖 本條ハ墳墓ヲ發掘シテ死體遺骨遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ毀棄領得スル行爲ヲ罰スルノ規定ニシテ犯狀重キニ因リ特ニ其刑ヲ加重セリ

第二百九十二條

檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

圖圖 本條ハ檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル者ヲ罰スル規定ニシテ變死者トハ豫定ノ原因ナクシテ致命セルモノヲ云ヒ變死者ノ埋葬ハ往々ニシテ殺人罪ノ證據湮滅ノ爲ニ企テラル、コトアルヲ以テ法律ハ如何ナル原因ニ依リテ死亡シタルヲ問ハス必ス醫師ノ檢案及ヒ當該官吏ノ檢視ヲ經タル後埋葬スキヲ命シ如上ノ弊害ヲ防遏セント期シタリ

第二十五章 瀆職ノ罪

圖圖 本章ハ公務員瀆職罪ノ規定ニシテ舊刑法第二編第九章官吏瀆職罪ノ規中官吏人民ニ對スル罪ノ規定ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ、瀆職罪トハ公務員カ職務上ノ義務ニ違反シ又ハ權限ヲ濫用シテ個人ノ法益ヲ侵害シ若クハ貪汚ノ行爲ニ依リテ官公職ノ威嚴ヲ汚濁スル罪ナリ、舊刑法ニ修正ヲ加ヘタル重ナル點ヲ擧クレハ唯官吏ノ職務ニ關スル規定ナリシヲ廣ク公務員ノ瀆職ニ適用スルコト得セシメタルト賄賂ヲ贈與シタル罪及ヒ公務員ノ職務上ノ秘事ヲ漏泄シタル罪ノ規定ヲ新設セルコト之ナリ

第二百九十三條

公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

圖圖 本條ハ公務員職權ヲ濫用スル罪ノ規定ニシテ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメタル場合ト、行フヘキ權利ヲ妨害シタル場合トニ區別シ得ヘシ、職務ヲ濫用スルト云フハ舊刑法ニ於テ擅ニ威權ヲ用ヒテ云フト同意義ニシ

テ公務員タル身分ニ依據シテ入ヲ威壓スルコトヲ意味ス、義務ナキコトヲ行ハシムトハ例ヘハ人民ハ法律上毫モ恤兵部ニ寄附スル義務ナキニ拘ラス郡長カ町民ノ或者ヲ威壓シテ無理ニ寄附ヲ爲サシム、ル如シ又權利ノ行使ヲ妨害スルコト例ヘハ總選舉ノ際警察官カ其職務ヲ濫用シテ投票ヲ妨害スルカ如キヲ云フ、

第九十四條

第九十四條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

監錮 本條ハ裁判檢察警察ノ職ヲ行フ者カ不正ニ人ヲ逮捕監禁シタル規定セルモノニシテ裁判檢察警察裁判檢察警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者ト云フハ即チ判事、檢事、司法警察官、巡查憲兵等を謂ヒ、逮捕トハ人ノ自由ヲ直接ニ束縛スル行爲ニシテ監禁トハ人ヲ或場所ニ幽閉スルヲ云フ、

第九十五條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

助スル者其職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦同シ

監錮 本條第一項ハ所謂拷問罪ノ規定ニシテ裁判檢察警察ノ職ニアル者カ其職務ヲ行フニ當リ刑事被告其他ノ者ニ對シテ暴行陵虐ヲ爲シタル場合ニ關スル規定ナリ、職務ヲ行フニ當リト云フハ例ヘハ裁判警察官カ刑事被告ヲ訊問スル如キ場合ヲ言フモノニシテ其他ノ者トハ證人又ハ事實參考人等ヲ云フ、陵虐トハ殘忍苛酷ノ取扱ヲナスコトヲ意味ス、第二項ハ所謂囚人虐待罪ヲ規定ナリ、

第九十六條

第九十六條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

【圖釋】 本條ハ前二條ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死傷ニ致シタル者ノ罪ニ關スル規定ナリ前二條ノ行爲ハ職權ヲ濫用シ官紀ヲ紊亂スルモノナルノ故ヲ以テ法律ハ相當ノ刑ヲ科シテ之ヲ所罰スト雖モ若シ之レカ爲ニ人ヲ死傷ニ致スカ如キ重大ノ結果ヲ生シタル以上ハ單ニ瀆職ノ罪トシテ論スルニ止マラス更ニ其刑ヲ加重スヘキヤ勿論ニシテ是レ本條ニ於テ傷害罪ノ刑ト比較シ重キニ從ツテ處斷スト規定セル所以ナリ

第九十七條

第九十七條 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以上十年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其價格ヲ追徵ス

【圖釋】 本條ハ公務員收賄罪ノ規定ニシテ舊刑法ハ唯官吏收賄ノ場合ノミヲ舉クルヲ以テ各種ノ議員公職ニ在ル者ニ適用スル能ハス其不便尠ナカラサリシヨリ新刑法ハ改メテ廣ク公務員又ハ仲裁人ニ關スル規定ト爲シタリ抑モ「官吏公吏其他公職ニ在ル者カ其職務ノ範圍ニ屬スル事務ヲ行フニ當リテハ公平無私一點汚瀆ノ行爲ヲキテ期スヘキ職責アルニ拘ラス其職務ニ關シテ他人ヨリ贈與ヲ受クル如キコトナシ人カ職務ノ公平威信ノ保持到底望ムヘカラサル所ナルヲ以テ法律ハ嚴重ナル制裁ヲ設ケテ此汚瀆ノ行爲ヲ罰スルコト、ナシタリ而シテ本罪ノ成立要件トシテハ(一)公務員又ハ仲裁人タル身分ヲ有スル者タルコト(二)職務ニ關シタルコト(三)賄賂ヲ收受シ又ハ要求シ行クハ約束シタルコトヲ要ス職務ニ關シテハ職務ノ範圍内ニ屬スル事項ニ關シテト云フ意義ナリ故ニ自己ノ權限内ニ屬セサル事項ニ付キテ收賄スルモ本罪ヲ構成セサルハ勿論自己ノ權限外ノ行爲ヲ權限内ニ屬スル如ク假裝シテ收賄スルモ自己ノ權限外ノ事項ヲ自己ノ權限内ニ屬スルト誤信シテ收賄スルモ共ニ本罪ヲ以テ論スヘキ限ニアラス賄賂トハ職務上ノ行爲

ニ關シテ受クル不法ノ利益ニシテ金錢ニ見積リ得ルモノナリト否トヲ問ハス又物品タルト行爲タルトヲ分タスト雖モ少クトモ有形的ノ利益ナルコトヲ要ス故ニ響應ノ如キモ亦賄賂タルヤ勿論ナリ唯茲ニ注意スヘキハ公務員ニ對シテ囑託ヲ爲スニ際シ一般贈答ノ禮ニ用キル物ヲ贈リタルニ過キスシテ敢テ善良ノ風俗ニ反セサルモノハ收賄トシテ見ルヘキルアラヌ例ヘハ或官吏カ植木ヲ好ムカ故ニ其意ニ投セントシテ一鉢ノ植木ヲ贈ル如キハ習慣上一般ニ認メラレタル所ニシテ善良ノ風俗ニ反セス隨テ罪トナラス

第二項ハ收受シタル賄賂ノ沒收ニ關スル規定ニシテ賄賂ノ如キ不法ノ利益ハ收賄者ノ手ニ有セシムヘキ理由ナキヲ以テ之ヲ沒收スルコト、シ其既ニ消費シタルモノハ之ヲ追徵セシムルコト、セリ此種ノ犯罪ヲ防遏スルニ於テ實ニ必要ノ處分ナリ但シ響應又ハ賣春婦等ノ馳走ニ關リタル者ニ付キテハ沒收又ハ追徵スヘキ方法ナキヲ以テ之ヲ如何トモスルナシ、

第九十八條

第九十八條 公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處

ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

懲罰本條ハ贈賄者ヲ罰スル規定ニシテ新刑法ニ於テ新設セシモノナリ公務員ニシテ賄賂ヲ收受スル者ハ卑劣ノ心之ヲシテ然ラシムルモノナリト雖モ又利益ヲ提供シテ之ヲ誘惑スル者亦罪ナシトセス故ニ公務員ノ收賄ヲ防遏センカ爲ニハ贈賄者ヲモ罰シテ請託苞苴ノ授受ヲ禁止セサルヘカラス是レ本條ノ規定アル所以ナリ

第二十六章 殺人ノ罪

殺人ノ罪

懲罰 本條ハ殺人罪ノ規定ニシテ舊刑法第二百九十二條謀殺及ヒ第二百九十四條故殺ノ規定ヲ合セテ之ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ蓋シ殺人行爲ニ付キ謀殺ト故殺トヲ區別スル法制ノ可否ニ付キテハ學者間ニ議論ノアル所ナリト雖モ理論上殺人行爲ニ付テ豫謀ノ有無ヲ判別スルハ頗ル困難ナルノミ

ナラス之ヲ實際ニ徵スルニ故殺必スシモ輕シトセス謀殺必スシモ重シト謂フヘカラサルヲ以テ新刑法ニ於テハ此區別ヲ廢止シ殺人行爲全體ニ通スル規定ヲ設ケ其結果刑ノ範圍ヲ擴張セリ、

第九十條

第九十九條 人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年

以上ノ懲役ニ處ス

醫圖 本條ハ殺人罪ニ關スル規定ニシテ廣ク殺人ト云ヘハ過失殺毆打致死等ヲモ含ムト雖モ本章ノ所謂殺人ハ謀殺ニ限ルモノト知ルヘシ殺人トハ權利ナキ者カ故意ヲ以テ人ノ生命ヲ絶ツノ行爲ニシテ積極的行爲例ヘハ打チ殺スナルト消極的行爲例ヘハ餓死セシムルナルトヲ問ハス其殺害ニ用キタル手段ノ如何ヲ論セス但シ精神的ニ人ヲ煩悶セシメテ死ニ致シタル者ニ付キテハ疑アリト雖モ其立證ニシテナシ得ヘクハ殺人罪ノ成立ニ何ノ妨アルコトナシ本條ハ各種ノ殺人罪ニ通スル規定ナルヲ以テ刑ノ範圍ヲ廣クシ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處スト規定セリ、

第二百條

第二百條 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

醫圖 本條ハ自己ノ直系尊屬又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ニハ特ニ其刑ヲ加重スヘキコトヲ定メタルモノナリ抑モ殺入罪ニ於テ被害者ノ身分ノ上下、年齢ノ長幼ニヨリテ其刑ヲ異ニスヘキ理由アルコトナシト雖モ我國ノ如キ家族制度ノ基礎強固ニシテ自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ特ニ尊敬スルノ習慣アル國ニ於テハ殺人ノ如キ重大ナル犯罪ニ付キテハ特別ニ之ヲ保護スル必要アルヲ以テ此規定ヲ設ケタリ、

第二百一條

第二百一條 前二條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

醫圖 殺人罪ノ如キ重大ノ犯罪ニアリテハ管ニ其未遂ノ行爲カ社會ニ危害ヲ及ホスノミナラス其準備ノ行爲モ尙ホ人ヲシテ恐怖不安ノ念ヲ生セシム

ルモノナルヲ以テ其未遂及ヒ準備行為ヲモ處罰シテ危害ヲ未發ニ防止スル必要アリ是レ即チ本條ノ規定ナル所以ニシテ唯其中ニ就キ犯情ノ酌量スヘキ者ハ必スシモ重ク之ヲ處罰スル必要ナキヲ以テ僅カニ二年以下ノ懲役ヲ科スルコト、シテ免除スルコトヲ得セシメタリ、

第二百二

第二百二條 人ヲ教唆若クハ幫助シテ自殺セシメ又ハ被殺

者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

隱匿 本條ハ自殺ニ關スル罪ノ規定ニシテ四個ノ場合ヲ區別シテ之ヲ論スルコトヲ便トス(一)人ヲ教唆シテ自殺セシメタル場合(二)人ヲ幫助シテ自殺セシメタル場合(三)被殺者ノ囑託ヲ受ケテ其人ヲ殺シタル場合(四)被殺者ノ承諾ヲ受ケテ其人ヲ殺シタル場合之ナリ、自殺トハ自己ノ意思ヲ以テ自己ノ生命ヲ絶ツコトヲ意味シ社會ニ大ナル惡影響ヲ及ホスモノナリト雖モ自殺ノ既遂者ハ之ヲ罰スルニ由ナク又其未遂者ヲ罰スルトセハ縲紲ノ辱ヲ免レント

第二百三

第二百三條 第百九十九條第二百條ニ前條ノ未遂罪ハ此ヲ罰ス

第二編 第二十五章 殺人ノ罪

スルノ結果自殺者ヲシテ死ヲ急カシムルノ弊ヲ生スヘキヲ以テ法律ハ自殺其モノヲ犯罪トシテ罰セス然レトモ自殺ノ教唆者幫助者囑託ヲ受ケタル下手人承諾ヲ得タル下手人ニ至リテハ之ヲ不問ニ附スルコト能ハサルヲ以テ法律ハ刑ヲ設ケテ是等ノ行為ヲ罰シ以テ自害ノ弊害ヲ尠ナカラシメント期シタリ、犯罪ノ教唆ハ總則ノ規定ニ依リ正犯ト同一ニ處分スヘキモノナリト雖モ自殺ノ場合ニ於テハ正犯アルコトナキヲ以テ教唆犯成立スルコトナシ、故ニ本條ハ特ニ教唆者ヲ罰スルノ規定ヲ設ケタリ、自殺ノ教唆ト云フハ他人ニ自殺ノ決意ヲ促サシメタル所ノ行為ヲ云フモノニシテ其手段方法ハ既テ問フ所ニアラス、自殺ノ幫助トハ自殺ヲ容易ナラシメタル行為ヲ總稱スルモノニシテ教唆ノ場合ト均シク從犯トシテ論スルヲ得サルヲ以テ特別ニ之ヲ規定セリ、被殺者ノ囑託ト云フハ依頼ヲ受ケタルノ意ニシテ其承諾ト異ル所ハ自ラ進ンテ爲シタルト否ラサルトノ點ニアリ、

醫圖 第八十六條ニ述ヘタルト同一ノ理由ニ依ル、

傷害ノ罪

第二十七章 傷害ノ罪

醫圖 本章ハ舊刑法ノ所謂毆創傷ノ罪ノ規定ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ毆打創傷ナル語ハ頗ル穩當ヲ缺クヲ以テ新刑法ハ改メテ傷害ノ罪ト名ツケ汎ネク身體傷害ニ關スル規定タルコトヲ明ニセリ故ニ毆打以外ノ方法ニ依リ又ハ外部ニ創傷ヲ生セス傷害ヲ生セシメタル場合モ悉ク之ヲ包含セシムルコト、シ從來ノ疑義ヲ氷解セシメタリ、

第二百四

第二百四條 人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲懲又

ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

醫圖 本條ハ傷害者ノ規定ニシテ傷害トハ人ノ肉體上ノ機能ヲ毀損スル行爲ヲ總稱シ人ノ肉體ノ外部ト内部トヲ區別セス、毆打ニ依ルト否ラナルトヲ問ハス犯人自己ノ力ニ依ルト他ノ力ヲ利用スルトヲ論セス、身體傷害ノ程度事情ハ多種多樣ナルヲ以テ法律ハ刑ノ範圍ヲ頗ル廣汎ニシ裁判官ヲシテ適

宜ノ適用ヲ爲サシムルコト、ナセリ、

第二百五

第二百五條 身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ二年以

上ノ有期懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ無期

又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

醫圖 本條ハ身體傷害ノ結果トシテ人ヲ死ニ致シタル場合ノ規定ニシテ若シ傷害ノ結果人ヲ死ニ致サシメタルトキハ單ニ身體ヲ毀損シタル場合ニ比シテ刑ヲ加重スルノ必要アルヤ勿論ナリ、第二項ハ殺人罪ノ場合ニ於テ直系尊屬ヲ傷害シタル者ニ刑ヲ加重シタルト同一ノ理由ニ依ル、

第二百六

第二百六條 前二條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケ

タル者ハ自ラ人ヲ傷害セシト雖モ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以上ノ罰金若クハ科料ニ處ス

醫圖 本條ハ身體傷害ノ罪ヲ犯ス者アルニ當リ其現場ニ於テ單ニ勢ヲ助ケ

タル者ニ關スル規定ナリ。傷害罪ノ現場ニ於テ勢ヲ助ケタル者ノ中ニハ純然タル幫助行為ト爲ルモノト未タ幫助行為ノ程度ニ達セサルモノトアリ。幫助行為ノ程度ニ達シタル者ハ從犯トシテ論スヘキ者ナリト雖モ他ノ犯罪ノ場合ニ比シテ其狀輕キモノナルノミナラス幫助ノ程度ニ達シタリヤ否ヤヲ識別スルコト頗ル困難ナルヲ以テ新刑法ハ本條ニ於テ勢ヲ援ケタル者一般ニ通スル規定ヲ新設セリ。

第二百七

第二百七條 二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合

ニ於テ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生シタル者知ルコト能ハサルトキハ共同者ニ非スト雖モ共犯ノ例ニ依ル

要義 本條ハ二人以上ニテ人ノ身體ヲ傷害シタル場合ニ於テ其中何レノ者ノ行為カ重キ傷ヲ負ハシムルノ原因トナリ何レノ者ノ行為カ輕キ傷ヲ負ハシムル原因トナリシカ又ハ一箇所ノ傷ニ付キテ其傷カ何人ノ行為ノ結果ナ

第二百八

第二百八條 暴行ヲ加ヘタル者人ヲ傷害スルニ至ラサルト

キハ一年以下ノ懲役若クハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若クハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

要義 本條ハ傷害ニ至ラサル暴行ヲ罰スルノ規定ナリ。人ヲ傷害スルニ至ラサル場合ニ於テハ之ヲ罰スルノ必要ナキモノ、如シト雖モ人ノ身體ニ對シテ暴行ヲ加フルノ所爲ハ之ヲ不問ニ附スヘカラサルヲ以テ法律ハ之ヲ罰スルコト、爲シタリ。但シ被害者又ハ其法定代理人ニ於テ犯人ヲ處罰セシムルノ意思ナキ場合ニ於テカ、ル輕微ノ犯罪ヲ強キテ處分スル必要ナキヲ以テ之ヲ親告罪ト爲シタリ。

過失傷害ノ罪

第二十八章 過失傷害ノ罪

醫廳 本章ハ舊刑法第三編第一章第四節過失殺傷ノ罪ノ規定ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ新刑法ニ於テハ之ヲ過失傷害罪ト改メ職務ニ關スル過失傷害ニ關スル規定ヲ新設シ過失傷害ノ罪ヲ親告罪ト爲シタリ過失トハ行爲者ガ豫見セサルヘカラサル結果ニシテ而モ行爲者ガ豫見シ得ヘカリシニ拘ラス之ヲ豫見セサリシヲ云ヒ過失ニ基ク行爲トハ行爲者ガ注意ヲ欠キタルカ爲ニ豫見シ得ルニ拘ラス豫見セサル結果ヲ發生シ若クハ其結果ノ發生ヲ防止セサリシコトヲ云フ

第二百九

第二百九條 過失ニ因リ人ヲ傷害シタル者ハ五百圓以下ノ

罰金又ハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ持テ之ヲ論ス

醫廳 本條ハ過失傷害罪ノ規定ナリ過失ハ原則トシテ罰セサルヲ例トスト

第二百十

第二百十條 過失ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ千圓以下ノ

罰金ニ處ス

醫廳 本條ハ過失殺ノ場合ニ關スル規定ニシテ假令故意ニ出テタルニアラストスルモ其結果重大ナルモノアルヲ以テ親告罪トセス罰金額モ大ニ之ヲ増加シタリ

第二百十一

第二百十一條 業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ

第二編 第二十八章 過失傷害の罪

致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
國醫 本條ハ職務上必要ナル注意ヲ怠リ人ヲ死傷ニ致シタル者ノ罪ニ關ス
ル規定ニシテ普通人ノ過失ニ依リテ人ヲ死傷セシメタルニ比シテ其情狀頗
ル重キヲ以テ特ニ此規定ヲ設ケ前條ノ場合ニ比シテ重キ刑ヲ科スル事ト爲
シタリ、

墮胎ノ罪

第二十九章 墮胎ノ罪

懲罰 本章ハ舊刑法第三編第一章第八節ノ規定ニ少シク修正ヲ加ヘタルモ
ノニシテ墮胎トハ自然ノ分娩期ニ先タチ人工ヲ以テ胎兒ヲ母體外ニ驅除ス
ル場合ヲ總稱ス、墮胎ノ行爲ハ胎兒ノ生命ニ危険ヲ及ホシ公ノ秩序ヲ害スル
コト大ナルヲ以テ國家ハ刑罰ヲ設ケテ之ヲ防遏センコトヲ期シタリ、而シテ
墮胎ニハ(一)懷胎セル婦人カ自ラ墮胎ヲナス場合(二)他人カ懷胎セル婦人ノ囑
託又ハ承託ヲ得テ墮胎スル場合(三)他人カ懷胎セル婦人ノ囑託又ハ承託ヲ得
スシテ墮胎セシムル場合(四)醫師產婆等特別ノ業務ニ従事スル者カ墮胎セシ

第二百十二條

ムル場合ノ四ニ區別シ得本章ハ其各場合ニ付キテ規定ヲ設ケタルモノナリ
第二百十二條 懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以
テ墮胎シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

醫藥 本條ハ懷胎セル婦人カ自ラ墮胎ヲ爲シタル場合ノ規定ニシテ假令胎
兒ハ母體ト一體ヲ爲スモノナリト雖モ墮胎ノ行爲ソレ自身ハ公益ニ關スル
コト重大ナルモノアルヲ以テ懷胎ノ婦女自ラ墮胎セル時ニ於テモ法律ハ之
ヲ不問ニ附スルヲ許サス、是レ本條ノ規定アル所以ナリ、然レトモ墮胎セル婦
女カ自殺未遂ノ結果偶々胎兒ノ死亡ヲ惹起スルニ至リタルトスルモ墮胎罪
トシテ論スルコトヲ得ス、何トナレハ其母ニシテ墮胎ノ意思ナク胎兒ノ生命
カ母體ノ生命ト相關聯シテ獨立ノ存在ヲ有セサルカ爲メ意外ノ結果發生セ
シニ過キサルヲ以テナリ、

第二百十三條

第二百十三條 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セ
シメタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス、**圖**テ婦女ヲ死傷ニ致

シタル者ハ一月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

醫師 本條ハ他人カ懐胎セル婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ承諾ヲ得テ墮胎セシメタル罪ノ規定ナリ、墮胎ノ如キ公益ヲ害スルコト大ナル所爲ハ假令其囑託ヲ受クルモ之ヲ諫止スヘク又自ラ之ヲ勸誘シテ其承諾ヲ求ムヘキ理由アルコトナシ然ルニ今其囑託ヲ求メテ之ヲ實行シ承諾ヲ得テ敢テ之ヲ爲スニ至リテハ其情狀却テ墮胎者自ラ墮胎セシメタルニ比シテ重キモノアリ、此レ本條ニ於テ是等ノ者ニ對シテ其刑ヲ加重セル所以ナリ、且ツ墮胎ニ因リテ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ニ於テハ事態一層重大ナルヲ以テ更ニ其刑ヲ重クシタリ、

第二百十四條 醫師、產婆、藥劑師又ハ藥種商、婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス、因テ婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

醫師 本條ハ墮胎ニ關シ特別ノ身分ヲ有スル者カ墮胎ヲ爲シタル場合ノ規

第二百十四條

第二百十五條

定ニシテ是等ノ身分アル者カ墮胎ヲ爲スハ普通人ノ墮胎ヲ爲スニ比シテ情狀重キモノアルヲ以テ刑ヲ加重セリ、因テ婦女ヲ死ニ致シタル場合亦同シ、

第二百十五條 婦女ノ囑託ヲ受ケス又ハ其承諾ヲ得スシテ墮胎セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

醫師 本條ハ婦女ノ意ニ反シテ墮胎セシメタル者ノ罪ノ規定ナリ、墮胎ノ罪ハ既ニ懷胎セル婦女囑託又ハ承諾ヲ得テ爲シタル場合ト雖モ之ヲ處罰ス、況ンヤ其承諾ヲ得ス囑託ヲ受ケス暴行脅迫ヲ用キテ墮胎セシメタルニ於テハ其刑ヲ加重スヘキヤ明ナリ、

第二百十六條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル

者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

醫師 本條ハ懷胎セル婦女ノ意ニ反シテ墮胎セシメ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル罪ノ規定ナリ、是等ノ者ノ情狀ハ最モ重キモノアルヲ以テ第二百十三條

第二百十六條

遺棄ノ罪

第三十章 遺棄ノ罪

【要義】 本章ハ舊刑法第三編第一章第九節ノ規定ニ少シク修正ヲ加ヘシモノニシテ幼者老疾者ノ外ニ不具者ヲ加ヘ遺棄ノ外ニ保護ノ責任アル者カ生存ニ必要ナル保護ヲ爲サ、ル場合ノ規定ヲ設ケタリ遺棄トハ被害者ノ傍ヲ離レテ其保護養育ヲ廢施スルヲ云フモノニシテ二ノ場合アリ(一)ハ即チ被害者ヲ自分ヨリ遠クル場合ニシテ俗ニ捨ツルト云フモノ之ナリ(二)ハ自ラ被害者ヨリ遠サカルモノニシテ普通ニ云フ置去ノ場合ナリ、法律ガ遺棄ノ所爲ヲ罰スルハ羸弱老廢自ラ生活スルコト能ハサル者ヲ放棄シテ其極是等ノ者ノ生命自體ニ傷害ヲ生スル虞アルヲ慮リ之ヲ保護スル精神ニ出テタルモノナレバ例ヘハ他人カ保護スヘキコト明亮ナル場合例ヘハ警察署ニ幼兒ヲ遺棄スル如キハ本罪ヲ構成セス、

第二百七十七條

老幼不具又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可ムル

第二百二十八條

者ヲ遺棄シタル者ハ一年以上ノ懲役ニ處ス
 【要義】 本條ハ老幼不具又ハ疾病ノ爲メ自ラ生活ヲ爲ス能ハサル者ヲ遺棄シタル者ノ罪ニ關スル規定ナリ、扶助ヲ要スヘキモノトハ他人ノ扶助ヲ仰カスシテハ自ラ生活ヲ爲ス能ハサル者ヲ云フ、

第二百二十八條 老幼不具者又ハ病者ニ保護ス可キ責任アル者之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲サルトキハ三月以下五年以上ノ懲役ニ處ス
 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

【要義】 本條ハ老幼不具者又ハ病者ヲ保護スヘキ責任アル者ガ之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル給與ヲ爲サ、ル場合ノ規定ニシテ保護スヘキ責任アル者トハ直接ニ法律ノ規定ニ基ツキ扶養ノ義務ヲ有スル者例ヘハ親權者、後見人ト契約其他ノ原因ニ依リテ保護ノ義務ヲ生シタル者例ヘハ姙母カ契約ニ

依リ嬰兒ヲ監護スル如キ、捨子ヲ拾ヒ上ケタル者カ之ヲ拾ヒ上ケタルキヨリ
 監護ノ義務アル如キトテ、包含ス、是等ノ責任アル者カ法律上ノ義務ヲ無視シ
 老者幼者不具者病者ノ如キ自ラ生活スルノ力ナキ者ヲ遺棄シテ顧ミス又ハ
 飲食、衣服、藥劑等ノ必要缺クヘカサル生活ノ資料ヲ供給セス死ヲ待タシムル
 カ如キハ其罪情單純ナル遺棄罪ニ比シテ大ニ憎ムヘキモノアルノミナラス
 罪害ノ程度亦頗ル大ナルモノアルヲ以テ刑法ハ前條ノ罪ニ比シテ其刑ヲ加
 重シタリ、殊ニ自己又ハ配偶者ノ直系親屬ニ對シテ本罪ヲ犯ス者ニ至リテハ
 其情狀一層重キモノアルヲ以テ更ニ其刑ヲ加重セリ、

第二百二十九條

前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

釋義 本條ハ遺棄罪ヲ犯シテ人ヲ死傷ニ致シタル罪ノ規定ニシテ其事態頗ル重大ナルモノアルヲ以テ傷害罪ノ例ニ照ラシテ處斷スコト、ナシタリ、

逮捕及監禁ノ罪

第三十一章 逮捕及監禁ノ罪

釋義 本章ハ逮捕監禁ノ罪ヲ規定セルモノニシテ舊刑法第三編第一章第六節ニ少シク修正ヲ加ヘタルモノナリ官吏カ不法ニ人ヲ逮捕監禁スル罪ハ既ニ第二十五章濫職罪中ニ規定シタル所ニシテ本章ノ規定ハ専ラ私人若クハ官吏ナルモ其職務ニ關係ナキ一私人トシテ不法ニ他人ヲ逮捕監禁シタル場合ニ關ス、蓋シ逮捕監禁ハ人ノ自由ヲ束縛スルコト最モ重ナルモノナレハ法律ハ刑罰ヲ設ケテ個人ノ自由ニ對スル危害ヲ防遏セント期タシリ、

第二百二十條

不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

釋義 本條第一項ハ不法ニ人ヲ逮捕監禁スル罪ノ規定ニシテ不法ニト云フハ權利ナク責任ナクシテ人ヲ逮捕監禁スルコトヲ云フモノニシテ例ヘハ豫

審判事カ令狀ヲ執行シテ犯人ヲ逮捕スル如キハ權利ノ執行ナルヲ以テ逮捕ヲ爲スモ本罪ヲ構成セス又狂者ノ監督者カ其ノ監督ヲ爲ス如キハ義務ヲ行フモノナルヲ以テ監禁罪ニアラス逮捕トハ有形ノ自由ノ剝奪ト云フ義ニシテ直接ニ身體ノ上ニ物質力ヲ加ヘテ實行スルヲ常トス監禁トハ一定ノ區畫外ニ出ツル自由ヲ剝奪スルヲ云フモノニシテ其方法ノ如何ヲ問ハス第二項ハ自己又ハ配偶者ノ直系親ヲ不法ニ逮捕又ハ監禁シタル場合ノ處分ヲ規定セルモノニシテ其刑ヲ加重セルハ孝道ヲ重ンセシムル趣意ニ出テタリ、

第二百一十一條

前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

醫議 本條ハ逮捕監禁ニ因リ人ヲ死傷ニ致シタル罪ノ規定ニシテ此ノ如キ場合ニ於テハ其危害ノ程度頗ル大ナルヲ以テ傷害罪ヲ以テ論スヘキモノトセリ、

脅迫の罪

第三十二章 脅迫ノ罪

醫議 本章ハ脅迫ノ罪ノ規定ニシテ舊刑法第三編第一章第七節ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ今其修正ノ重ナル點ヲ擧クレハ(一)舊刑法ハ唯脅迫ヲ爲シタル場合ヲ規定シ脅迫ニ因リテ人ヲシテ義務ナキコトヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル場合ニ付キテ規定スル所ナカリシ故新法ニ於テ之ヲ補修シ(二)舊刑法ハ本罪ヲ以テ親告罪ト爲スト雖モ脅迫罪ノ如キハ私人ノ名譽ニ關スルヨリモ密ロ公益ニ關スル罪ナルヲ以テ新刑法ハ親告ノ制ヲ廢セリ從來脅迫罪ハ被害者ヲシテ畏怖心ヲ生セシメ私人ノ感情ヲ害スルカ故ニ之ヲ罰スルト論シ來レルモ現今多數ノ學者ハ脅迫ノ行爲ハ被害者ヲシテ權利ノ安全ニ關シ不安ノ念ヲ惹起サシメ爲メニ公ノ利益ヲ害スルモノトシテ之ヲ罰スヘキモノト説明スルニ至レリ、

第二百二十二條

生命、身體、自由、名譽又ハ財產ニ對シ害ヲ加フ可コトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財產ニ對シ害ヲ加フ可キコ

ト、ナ以テ人ヲ脅迫シタル者亦同シ

要義 本條第一項ハ自己ノ生命身體、財産、名譽ニ對スル脅迫ノ場合ノ規定ニシテ脅迫トハ權利ノ安全ニ關スル心裡ノ平和ヲ害スル所ノ一切ノ行為ヲ云フ、然レドモ本罪ノ構成要件タル脅迫ハ必スシモ他人ノ意思實行ノ自由ヲ妨害スルコトヲ必要トセス被脅迫者ニ於テ權利ノ安全ニ關シテ不安ノ觀念ヲ生スルヲ以テ足レリトス、此ノ點ハ公務員ノ職務ヲ妨害スルニ當リテ加フル脅迫ト其性質ヲ異ニス、害ヲ加フヘキコトヲ以テ人ヲ脅迫シタリト云フ故ニ脅迫者ニ於テ眞實害ヲ加フル意思アルト危害ヲ加ヘ得ル能力アルト否トヲ問ハス被脅迫者ニ於テ危害ヲ加ヘララ、ナラントノ不安ノ念ヲ生スレハ足レリ、之ニ反シテ眞ニ危害ヲ加フル意思ナルモ被脅迫者ニ於テ之ヲ信セス心ニ關スルコトナケレハ脅迫トナラス、第二項ハ親族ニ對スル脅迫ノ罪ノ規定ニシテ被脅迫者自身ニ對スルコトト等シク不安ノ念ヲ生セシムルモノアルヲ以テ法律ハ同一ノ刑ヲ以テ處罰スルコトトセリ、親族トハ民法第七百二十五條ニ規定セル六親內等ノ血族配偶者三親等內ノ姻族ヲ云フ、

第二百二十三條

第二百二十三條 生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加

フ可キコトヲ以テ脅迫シ又ハ暴行ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ人ヲシテ義務ナキコトヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者亦同シ

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

要義 本條ハ單純ナル脅迫ニ止ラス脅迫又ハ暴行ヲ用キテ義務ナキコトヲ行ハシメ又ハ行フヘキ權利ヲ妨害シタル場合ノ規定ニシテ單純ナル脅迫罪ニ比シテ其實害又ハ危險大ナルヲ以テ前條ノ脅迫罪ニ比シテ其刑ヲ加重シ且ツ其未遂罪ヲ罰スルコト、ナセリ、

第三十三章 略取及ヒ誘拐

釋義 本章ハ略取誘拐ノ罪ノ規定ニシテ舊刑法第三篇第一章第十節ノ規定ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ。略取誘拐トハ不法ノ手段ヲ以テ人ノ現在スル場所ヨリ他ノ場所ニ伴行スル行爲ヲ云フモノニシテ略取ハ其手段カ暴行又ハ脅迫ニ出テタル場合ヲ指シ誘拐ハ偽計及ヒ甘言ヲ以テシタル場合ヲ指シテ云フ。略取誘拐ハ公ノ秩序ヲ紊亂シ善良ノ風俗ヲ害スルコト大ナルニ依リ刑法ハ刑罰ヲ設ケテ此ノ種ノ行爲ヲ禁止シタリ。略取誘拐ハ普通ノ場合ニ於テハ或ル監督權者ノ支配ノ下ニアル幼者ヲ他ノ支配ノ下ニ移スヲ常トスト雖モ監督者ノ不明ナル浮浪ノ少年ヲ拐取スルモ誘拐ノ行爲トシテ刑法上罪トナルヘキモノナルヲ以ツテ誘拐罪ノ成立ニハ監督權者ノ有無ヲ問フコトナシ、

第二百二十四條

第二百二十四條 未成年者ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十五條

釋義 本條ハ未成年者ヲ略取誘拐セル罪ノ規定ニシテ此種ノ行爲ヲ犯シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處スヘキモノトス

第二百二十五條 營利、猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十六條

釋義 本條ハ營利、猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ偽計威力ヲ用キテ拐取シタル者ノ罪ニ關スル規定ニシテ是等ノ者ハ其犯情甚タ憎ムヘキモノナルノミナラス其危害モ亦大ナルモノアルヲ以テ其刑ヲ重クシ一年以上十年以下ノ懲役ニ處スルコト、爲シタリ。本條ノ罪ハ未成年者ニ限ラス丁年以上ノ者ニ對シテモ成立シ得ヘキモノトス。但シ偽計威力ヲ用フコトヲ必要トスル故ニ本人自ラ進ムテ爲シタル場合又ハ偽計威力ヲ用キス本人ニ於テ承諾シタル場合ニ於テハ本罪ヲ構成セサルモノトス、

第二百二十六條 帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シ又ハ被拐取者苦クハ被賣者帝國外ニ移送シタル者亦同ジ

團囂 本條第一號ハ海外ニ送ル目的ヲ以テ偽計威力ヲ用キテ人ヲ拐取シタル場合ヲ規定シ第二項ハ第一項ノ目的ヲ以テ人ヲ賣買スル場合又ハ被誘拐者ヲ海外ニ移送シタル場合ヲ規定シタルモノニシテ舊刑法ノ規定ハ狹キニ失スル故ニ其趣意ヲ擴張シタルモノナリ、

第二百二十七條

前二條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幫助スル目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受若クハ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

要義 本條ハ誘拐路取ノ罪ノ從犯ニ當ル罪ヲ規定セルモノニシテ總則ノ規定ニ依リ正犯ノ刑ニ照ラシテ減輕スヘキハ明ナルカ如シト雖モ其刑一定セ

サルヲ以テ特ニ本條ヲ設ケテ其刑ヲ一定セリ蓋シ法律カ誘拐取又ハ賣買ノ幫助行為ヲ罰スル所以ノモノハ監督權ノ恢復ヲ困難ナラシムル所爲ヲ罰シタルニ外ナラス第二項ノ規定ハ營利ノ目的ヲ以テ被拐者又ハ被賣者ヲ收受シタル者ノ刑ニ關スル規定ニシテ其犯情無キモノアルヲ以テ刑ヲ加重セリ收受トハ他人ヨリ交付ヲ受クル義ニシテ他人ノ交付ナキニ自己ノ支配ニ移スモ本ノヲ構成セス

第二百二十八條

本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

團囂 未遂犯〇ヲ罰スル所以ハ前述セリ、

第二百二十九條

第二百二十六條ノ罪同條ノ罪ヲ幫助スル目的ヲ以テ犯シタル第二百二十七條第一項ノ罪及ビ此等ノ時ノ未遂罪ヲ除ク外本章ノ罪ハ營利ノ目的ニ出デザル場合ニ限り告訴ヲ待テ之テ論ズ但被拐取者又ハ被賣者犯人ト婚姻ヲ爲シタル時ニハ婚姻ノ無効又ハ取消ノ裁判確

定ノ後ニ非ザレバ告訴ノ効ナシ

懲罰 本條ハ第二百二十六條第二百二十七條一項ノ罪及ヒ以上二罪ノ未遂犯ヲ除ク外、營利以外ノ目的ヲ以テ人ヲ拐取タシル場合ノミヲ親告罪ト爲スノ趣旨ヲ明ニセルモノナリ、蓋シ本章ニ定メタル罪ニ付キ其目的ノ如何ヲ問ハス、盡ク親告罪ト爲スハ廣キニ失スルノ嫌アルヲ以テナリ、但シ被拐者又ハ被賣人ニシテ犯人ト結婚セルトキハ假令告訴アルモ犯人タル配偶者ヲ罰スルコトハ夫婦間ノ平和家族ノ名譽ヲモ害スルコト、爲スヘキヲ以テ婚姻ノ無効又ハ取消裁判確定ノ後ニアラサレハ告訴ノ効ナキコト、爲シタリ、

名譽ニ對スル罪

第三十四章 名譽ニ對スル罪

要義 本章ハ名譽ニ關スル罪ノ規定ニシテ舊刑法第三編第一章第十二節中誹毀ノ規定ニ第四百廿六條第十二號ヲ加ヘ修正ヲ爲シタルモノナリ、名譽ト云フハ人カ其社會的生存ニ基ツキ他人ヨリ尊敬ヲ受クヘキ各個人ノ利益ヲ云フモノニシテ本章ニ於テハ公然事實ヲ指摘シテ人ノ名譽ヲ毀損シ

第二百三十條

公然事實ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者

ハ其事實ノ有無ヲ問ハズ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ誣罔ニ出ツルニ非ザレバ之ヲ罰セズ

懲罰 本章ハ所謂誹毀ノ罪ヲ規定セルモノニシテ誹毀トハ他人ノ名譽ヲ毀損スヘキ事項ヲ公表シ之レカ爲ニ其人ノ社會ニ於テ有スル位置ニ對シ危險ヲ與フル行爲ヲ云フ、法律カ誹毀ノ罪ヲ罰スル所以ノモノハ其人ノ感情如何ヲ標準トスルニアラスシテ人ノ社會ニ於テ有スル尊敬信用ニ危險ヲ與フルモノアルガ爲ナリ、事實ト言フハ人カ第三者ヨリ受クヘキ尊敬ヲ毀傷シ又ハ社會ヨリ受クヘキ尊敬ヲ減縮セシムルニ足ルヘキ事實ヲ總稱ス、舊刑法ハ惡事醜行ナル文字ヲ用キシモ穩當ヲ疑ク故之ヲ改メタリ、例ヘハ某紳士ハ賭博ニ耽ルノ惡癖アリト云ヒ又ハ某夫婦人ハ姦通セリト云フカ如シ摘示ストハ

自己ノ知ル所ヲ他人ニ向ツテ主張スルヲ云フ、事實ノ有無ニ拘ラストハ其ノ事實カ實際アリシト無カリシト問ハスト云フ義ナリ、第一項ハ生存者ノ名譽毀損ニ關スル規定ニシテ、事實ノ有無ニ拘ラス他人ノ惡事醜行ヲ公衆ノ聞知シ得ヘキ狀況ニ於テ發表シタル者ハ一年以下ノ懲役若クハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處スルコト、定メタリ、人ト云フハ一定ノ人ヲ指ス故ニ日本人ハ公徳心ナシト云フハ誹毀ノ罪ト爲ラス、

第二項ハ死者ノ名譽ヲ毀損シタル場合ノ規定ニシテ、死者ノ生存セル親屬ノ名譽ヲ保護センカ爲ニ設ケタルモノナリ、誣罔ト云フハ無根ノ事實ヲ虛構シテ人ヲ誹毀スルコトト云フ、

第二百三十一條

第二百三十一條 事實ヲ摘示セズト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

隱匿 本條ハ公然人ヲ侮辱シタル者ノ罪ノ規定ニシテ、事實ヲ摘示シタル者ニ比シテ被害者ノ名譽ヲ毀損スルコト少ナキヲ以テ極メテ輕微ノ刑ヲ以テ之ヲ處分セリ、侮辱トハ單ニ或人ヲ尊敬セストノ意思ヲ表示スルコトヲ云フ

第二百三十二條

第二百三十二條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ズ

モノニシテ例ヘハ人ニ對シテ馬鹿ト罵リ畜生ト云フカ如シ、
要義 本條ハ名譽ニ關スル罪ヲ親告罪ト爲スノ規定ナリ、蓋シ被害者ニ於テ之ヲ秘セントスルニ裁判所ニ於テ之ヲ審判スル必要ナキヲ以テナリ、

第三十五章 信用及ヒ業務ニ對スル罪

要義 本章ハ舊刑法第二編第八章商工業ヲ妨害スル罪ノ規定ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ、

第二百三十三條

第二百三十三條 虛偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ

懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス、

要義 本條ハ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル罪ノ規定ニシテ三年以下ノ懲役又ハ十年以下ノ罰金ニ處スヘキモノトス、

第二百三十四條

第二百三十四條 威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル者亦前

第二編 第三十五章 信用及ヒ業務ニ對スル罪

二百八十七

條ノ例ニ同ジ

要義 本條ハ威力ヲ用キテ他人ノ業務ヲ妨害シタル罪ノ規定ニシテ威力トハ暴行脅迫及ヒ威權ノ濫用ヲ意味ス、

竊盜及ヒ強盜ノ罪

第三十六章 竊盜及ヒ強盜ノ罪

要義 本章ハ舊刑法第三編第二章第一節第二節及ヒ第五節ノ一部ヲ合シ之ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ、舊刑法ハ盜賊ノ罪ヲ強盜竊盜ニ區別シテ之ニ關スル別名ノ節目ヲ設ケタリト雖モ此三種ノ罪ハ元來其性質ヲ同フスルヲ以テ之ヲ一章ニ集ムルコト、爲シタリ、舊刑法ハ竊盜ノ情狀ニ依リ種々煩雜ナル區別ヲ設ケタリト雖モ却テ刑ノ範圍ヲ狹隘ナラシムルノ不便アルヲ以テ新刑法ハ之ヲ削除セリ、

第二百三十五條

第二百三十五條 他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

要義 本條ハ竊盜罪ニ關スル規定ナリ、竊盜トハ暴行脅迫又ハ欺罔恐喝ノ手

第二百三十六條

第二百三十六條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ五年以上ノ有期懲役ニ處ス

段ニ依ラス他人ノ所有物ヲ他人ノ保有ヨリ自己ノ保有ニ移スコトヲ云フ他人ノ保有ヨリ移スコトヲ要スル點ニ於テ委託物費消ト異ナリ、暴行脅迫又ハ欺罔恐喝ノ手段ヲ用キサル點ニ於テ強盜又ハ詐欺取財ト異ル本條十年以下トシ短期ヲ規定セス刑期ノ範圍ヲ極メテ廣クシタルハ情狀ノ認定ヲ裁判官ノ認定ニ一任シ以テ適當ノ刑ヲ科セシメントスル趣意ニ出テタリ、竊販ノ物體ハ有體物ナラサルヘカラス、瓦斯又ハ水カ本罪ノ物體トナリ得ルヤ明ナリ、電氣カ財物ナリヤ力ナリヤ議論アルモ新刑法ニ於テハ財物ト看做スト規定セルヲ以テ竊盜ノ目的物ト爲ルコト勿論ナリトス、無體物タル權利例ヘハ貸金證書ヲ竊取スルハ債權ヲ自己ノ手ニ移スニ過キササルヲ以テ竊盜ニアラス、竊取ノ物體ハ之ヲ自己ノ保持ニ移シ得ルモノナラサルヘカラス、竊盜ノ物體ハ他人ノ所有ニ屬スルモノナラサルヘカラス、故ニ無主物ニ對シテ竊盜ノ成立スルコトナシ、

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ利益ヲ得セシメタル者亦同シ

〔要義〕 本條第一項ハ所謂強盜罪ノ規定ニシテ強盜トハ暴行脅迫ノ手段ヲ以テ他人ノ所有物ヲ自己ノ所持ニ移スノ行爲ヲ謂フ第二項ハ暴行脅迫ノ手段ヲ以テ財産上ノ利益ヲ取得シタル場合ノ規定ニシテ強盜ノ場合ニ於テハ單ニ財物ヲ強取シタル場合ノミナラス財産上ノ利益ヲ強取シタル場合ニ於テモ同様ニ之ヲ罰スル必要アルヲ以テ此規定ヲ設ケタリ暴行脅迫ヲ以テ利益ヲ得ル場合トハ例ヘハ人ヲ強制シテ無理ニ自己ノ利益トナルヘキ行爲不行爲ヲ承諾セシメタル如キヲ云ヒ利益ヲ得セシムルトハ第三者ノ利益ト爲ルヘキ行爲不行爲ヲ承諾セシメタル如キ場合ヲ指ス、

第二百三十七條

強盜ノ目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

〔要義〕 本條ハ強盜ノ豫備ヲ罰スル規定ニシテ之ヲ罰スル所以ノモノハ強盜ノ如キハ未タ實害ヲ生スルニ至ラスト雖モ社會ニ及ホス危險大ナルヲ以テ

第二百三十八條

竊盜財物ヲ得テ其取還ヲ拒ミ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ強盜ヲ以テ論ズ

〔要義〕 本條ハ所謂準強盜ヲ罰スル規定ニシテ普通ノ強盜ト異ナル所ハ後者ハ暴行脅迫ヲ以テ他人ノ所持ヲ奪フニ反シ前者ハ既ニ竊取タル目的物ノ取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ逃レ若クハ罪跡ヲ湮滅スルノ手段トシテ暴行脅迫ノ手段ヲ用キタルニアリ然レトモ其情狀ヲ考フレハ暴行脅迫ヲ以テ財物ヲ得タルト同様ノ手段ヲ以テ之ヲ失ハサランコトヲ努ムルト毫モ其間ニ輕重アルコトナキヲ以テ強盜罪ヲ以テ之ヲ論スルコト、ナシタリ、

第二百三十九條

人ヲ昏醉セシメテ其財物ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ論ズ

〔要義〕 本條ハ人ヲ昏醉セシメテ財物ヲ盜取シタル者ノ罪ニ關スル規定ニシ

テ人ヲ抵抗不能ナラシメテ財物ヲ奪取スル點ニ於テ暴行脅迫ヲ用キタルト異ナル所ナキヲ以テ強盜ノ罪トシテ論スルコト、爲シタリ、

第二百四十條

第二百四十條 強盜人ヲ傷ケタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

【釋】 本條ハ強盜人ヲ殺傷シタル罪ノ規定ニシテ人ヲ傷害スルニ止マルトキト雖モ單ニ暴行脅迫ノ手段ヲ用エテ財物ヲ奪取シタル罪ニ比シテ加重ノ狀情アルヲ以テ刑ヲ重クシテ無期又ハ七年以上ノ懲役トナシ、人ヲ死ニ致サシメタルトキハ事態殊ニ重大ナルヲ以テ死刑又ハ無期懲役ニ處スルコト、ナシタリ、

第二百四十一條

第二百四十一條 強盜婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

【釋】 本條ハ強盜強姦罪ノ規定ナリ、強盜カ婦女ヲ強姦シタル場合ニ於テハ特ニ其刑ヲ加重スルノ情狀アルヲ以テ無期又ハ七年以上ノ懲役トシ因テ婦女ヲ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ト爲シタリ、茲ニ注意スヘキハ強姦罪ハ親告罪ナリト雖モ強盜強姦罪ハ獨立ノ一罪ナルヲ以テ強姦ノ告訴ナシト雖モ本條ヲ適用シテ處斷スヘキモノナルコト之ナリ、

第二百四十二條

第二百四十二條 自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ本章ノ罪ニ付テハ他人ノ財物ト看做ス

【釋】 本條ハ強盜盜ノ物體カ自己ノ所有ニ係ル場合ノ規定ナリ、抑モ強盜盜ノ罪ハ他人ノ所有物ノ所持ヲ不法ニ自己ノ所持ニ移スコトニ依リテ成立スルモノナルヲ以テ自己ノ所有物ニ對シテ強盜盜ノ罪成立スヘキ理由アルコトナシト雖モ若シ自己ノ所有物カ他人ノ占有ニ屬スル場合例ハ質權ヲ設立セル場合ノ如シ又ハ公務所ノ命令ニ因リ他人ノ看守スル場合例ハ官署ノ爲メ差押ラレ而モ他人ニ依リ保有セラル、場合ニ於テ之レカ保有ヲ

奪フトキハ他人ノ權利ヲ侵害シ又ハ公務所ノ命令ヲ無視スルモノナルヲ以テ強盜罪ノ罪ニ付キテハ他ノ所有物ト看做シ之ヲ竊取シタル場合ニ於テハ竊盜罪ト爲シ強取シタル場合ニ於テハ強盜罪トシテ罰スルコト、爲シタリ、第二百四十三條第二百三十五條第二百三十六條第二百三十八條乃至第二百四十一條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス、

○國 本條ハ強盜罪ノ未遂罪ヲ罰スル規定アリ、

第二百四十四條

直系血族配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族

ノ間ニ於テ第二百三十五條ノ罪及ヒ其未遂罪ヲ犯シタル者ハ其罪ヲ免除シ其他ノ親族又ハ家族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ズ

親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

○國 本條ハ直系血族配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族間ニ於テ強盜罪ノ行爲アリタル場合ノ規定ニシテ斯ノ如キ場合ニ於テハ假令其犯罪ハ成立スル

第二百五十五條

本章ノ罪ニ付テハ電氣ハ之ヲ財物ト看做

ス

○國 本條ハ強盜罪ノ罪ニ關シテハ電氣ヲ財物ト看做スコトヲ定メタル規定ナリ、電氣ノ力タリヤ物タルヤハ學者間大ニ議論ノアル所ニシテ電氣ヲ以

第二編 第三十六章 竊盜及ヒ強盜ノ罪

モ親族間ノ平和ヲ維持スル必要ヨリシテ以上ノ身分ヲ有スル者ニ對シテハ刑ヲ科セサルコト、ナシ其他ノ親族又ハ家族犯シタルトキハ被害者ノ告訴ヲ待チテ論スルコト、爲シタリ、直系血族トハ共同ノ祖先ヨリ一直線ニ下降セル血族ニシテ自己ノ出テタル血族及ヒ自己ヨリ出ツル所ノ血族ヲ總稱ス、

例ヘハ高祖父母、曾祖父母、祖父母、父母、子孫、曾孫、玄孫等ノ如シ、民法ハ養親ト養子、繼父母ト繼子、嫡母ト庶子トノ關係ヲ血族ト同視スルヲ以テ此等ノ者モ亦直系血族タルヲ失ハス、家族トハ戶主ノ親族ニシテ其家ニ在ル者及ヒ其配偶者ヲ云フ、第二項ノ規定ハ親族相盜ニ他人ノ加ハリタル場合ノ規定ニシテ親族又ハ家族ノ關係ナキ共犯者ハ毫モ其刑罰ヲ免除スヘキ理ナキヲ以テ之ヲ罰スルコト、爲シタリ、

テ物ニアラス單ニ力ナリトスル説理論ニ適スル如クナレトモ文明ノ社會ニ於テ電氣力ノ強取、竊取ハ頻繁ニ行ハル、所ナルヲ以テ實際ノ便宜ニ應スル爲メ本法ニ於テ強竊盜ニ關シテハ電氣ヲ財物ト看做シ本章ノ罪ノ目的物ニアリ得ルコトヲ明定シタリ、

詐欺取財
及ヒ恐喝
ノ罪

第三十七章 詐偽取財及ヒ恐喝ノ罪

國語 本章ハ舊刑法第三篇第一節中詐欺取財ノ規定ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ修正ノ重ナル點ハ詐欺取財ヲ恐喝取財トヲ區別セルニアリ、

第二百四十六條

人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

國語 本條ハ詐欺取財ノ規定ニシテ詐欺取財トハ人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取

第二百四十七條

スル行爲ヲ云フ欺罔トハ偽計ヲ設ケテ他人ヲ錯誤ニ陥ウシメ又ハ既ニ陥リタル他人ノ錯誤ヲ更ニ強固ニスルコトヲ云フ故ニ單純ナル虛言ハ欺罔ノ行爲ト云フコトヲ得ス彼ノ屢々耳ニスル所ノ無錢遊興ハ詐欺取財ナルヤ否ヤト云フニ欺罔ト云フ所爲アリタリヤ否ヤ即チ人ヲ錯誤ニ陥キル、舉動アリタルヤ否ヤニ依リテ決スルノ外ナシ例ヘハ華族ノ子弟ナリト稱シ又ハ立波ナル服裝ヲ爲シ特更ニ金錢アルコトヲ信セシメテ飲食ヲ供給セシメタルトキハ欺罔行爲アリタルモノナルヲ以テ詐欺取財トナルモ單ニ飲食ヲ爲シタル後ニ金錢ヲ所持セサリシコトヲ告ル場合ニ於テハ欺罔ノ行爲ヲキテ詐欺取財ヲ構成セサルカ如シ騙取トハ他人ヲ錯誤ニ陥レ其他人カ交付スルコトヲ同意シタル財物ノ所持ヲ自己又ハ第三者ノ手ニ移サシムルヲ云フ而シテ竊取強取ト異ル點ハ被欺罔者カ其財物ノ所持ヲ移スコトヲ承諾シタルト否トニアリ第二項ハ人ヲ欺罔シア財産上ノ利益ヲ自己又ハ第三者ニ移シタル場合ノ規定ニシテ其趣意ハ二百三十七條第二項ノ規家ト同一ナリ

第二百四十七條 他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者自己若ク

第二編 第三十七章 詐欺取財及ヒ恐喝罪

ハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

【釋】 本條ハ他人ノ爲ニ事務ヲ處理スルモノカ利益ヲ計ルノ目的ニ出テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シテ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタル場合ニ關スル規定ナリ他人ノ事務ヲ處理スル者ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テスヘキニ却テ其信用ニ背キ自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ本人ノ財産ヲ減少スルカ如キハ其情ニ方テ許スヘカラサル惡事ニシテ且ツ社會ノ進歩ニ伴ヒ此種ノ非行漸次増加スル傾向アルヲ以テ法律ハ本條ノ規定ヲ設ケテ其弊害ヲ防遏セントシタリ

第二百四十八條 未成年者ノ智慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘シテ其財物ヲ交付セシメ又ハ財産上不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ

第二百四十八條

處ス

【釋】 本條ハ所謂準詐欺所財ノ規定ニシテ未成年者ノ智慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ヲ利用シテ其財物ヲ亦付セシメタル者ハ詐欺取財ニ依リ處斷スヘキモノト爲シタリ凡ソ詐欺取財ノ手段トシテハ人ヲ詐罔スルコトヲ要スト雖モ智慮カ淺薄ナル者又ハ心神耗弱ナル者ハ欺罔セサルモ財物ヲ取上クルニ容易ナルヲ以テ別ニ欺罔ノ手段ヲ用エサルモ用トタルト同視シ詐欺所財ヲ以テ論スヘキモノト爲シタリ財産上ノ利益ヲ自己又ハ他人ニ讓渡セシメタルモノ亦同シ

第二百四十九條

第二百四十九條 人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

【釋】 本條ハ恐喝取財ノ規定ナリ恐喝取財トハ人ヲ恐喝シテ財物ノ所持ヲ

第二編 第三十七章 恐喝取財及ヒ恐喝罪

二百九十九

自己及ハ第三者ニ移サシムル行爲ヲ謂フモノニシテ恐喝トハ人ヲシテ危害ヲ被ルベキコトヲ信用セシメテ意思實行ノ自由ヲ制限スルコトヲ意味ス、而シテ恐喝ノ脅迫ト異ル點ハ恐喝ノ場合ニ於テハ被恐喝者ニ於テ熟考ヲ試ミ得ルノ餘地アルコトヲ必要トスルニ反シ脅迫ノ場合ニ於テハ被脅迫者ノ身體又ハ生命ニ加ヘラル、コトアルベキ危害切迫シテ熟考ヲ試ムルノ餘地ナキニアリ、例ヘバ明日迄金百圓ヲ調達セサレハ汝ノ惡事ヲ摘發スベシト云フハ恐喝ニシテ眼前汝ノ財布ヲ引渡サマレハ直チニ汝ヲ殺害スベシト云フハ脅迫ナルガ如シ。

第二百五十條

第二百五十條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

【要義】 本條ハ詐欺取財恐喝取財ノ未遂ヲ罰スル規定ナリ、

第二百五十一條

第二百五十一條 本章ノ罪ニハ第二百四十二條、第二百四十四條及ヒ第二百四十五條ノ規定ヲ準用ス

【要義】 本條ハ本章ノ罪ニ付キテモ他人ノ占有ニ屬シ又他人ノ看守ニ係ル自

己ノ所有物ヲ騙取若クハ交付セシメタルトキハ他人ノ物ヲ騙取若クハ交付セシメタル場合ト同シク之ヲ處罰シ、親族家族間ノ詐欺取財若クハ恐喝取財ニ付テハ其罪ヲ免際シ又ハ告訴ヲ待チテ論スルコトシ、又電氣ハ欺取財若クハ恐喝取財ニ付キテモ財物ト看做スコトヲ明ニシタルモノナリ、

横領ノ罪

第三十八章 横領ノ罪

【要義】 本條ハ舊刑法第三編第二章第三節遺失物及ヒ埋然物ニ關スル規定ニ第五章受寄物ノ規定ヲ合セ之ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ、今其修正ノ要點ヲ舉クレバ(一)舊刑法ハ受寄物ヲ費消スルカ又ハ騙取、拐帶スルニアラサレハ罪ト爲ササル以テ單ニ受寄ノ財物ヲ自己ノ物ト爲シタル場合ニ於テハ何等ノ罪ヲ構成セス被害者ハ唯民事上ノ救済ヲ求ムル外ナク其保護極メテ薄弱ナリシヲ以テ新刑法ハ他人ノ物ヲ自己ノ物トナシタル場合ニハ之ヲ罪トシメタスルコト、爲シ費消、拐帶ノ行爲ト共ニ横領罪ナル名稱ノ下ニ包括セシメタリ(二)舊刑法ハ受寄物ニ關シ業務上他人ノ爲ニ占有スル場合ト然ラサル場合

第二編 第三十八章 横領ノ罪

第二百五十二條

トヲ區別セスト雖モ新法ニ於テハ之ヲ區別シ兩者ノ間ニ輕重ヲ設ケタリ。
第二百五十二條 自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ横領シタル者亦同シ

釋義 本條ハ横領罪ノ規定ニシテ横領トハ他人ノ爲ニ占有スル物ヲ不法ニ自己ノ所有ニ移スヲ云フモノニシテ例ヘハ他人ノ爲ニ或物品ノ保管ヲ依頼セラレタル者カ其物品ヲ賣却シ又ハ返還セサルカ如キヲ云フ占有トハ自己ノ爲ニスル意思ヲ以テ物ヲ所有スルヲ云フ蓋シ他人ノ爲ニ他人ノ物ヲ占有スル者カ濫リニ之ヲ費消シ又ハ自己ノ所有ト爲スノ行爲ハ交通取引ノ安全ヲ妨ケ社會ノ信用ヲ害スルコト大ナルヲ以テ法律ハ制才ヲ設ケテ是等ノ行爲ヲ禁止シタリ第二項ハ舊刑法第三百九十六條ニ相當スル規定ニシテ舊刑法ハ自己ノ所有物ト雖モ官署ヨリ差押ヲ受ケタル場合ニ其物件ヲ藏匿又ハ

第二百五十三條

第二百五十三條 業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

釋義 本條ハ業務上他人ノ物ヲ占有スル者ガ其他ヲ横領シタル場合ノ規定ニ於テ業務上他人ノ物ヲ占有スル者例ヘハ質商ガ其質物ヲ自己ノ物トシテ消費シ又ハ返還セサル如キハ普通ノ人ノ之ヲ消費シ返還セサルニ比シ交通取引ノ安全ヲ妨ケ經濟信用ノ發達ヲ害スルコト大ナルヲ以テ前條ノ場合ニ比シテ刑ヲ加重セリ、

第二百五十四條

第二百五十四條 遺失物漂流物其他占有ヲ離レタル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

釋義 本條ハ遺失物漂流物ヲ横領シタル罪ノ規定ナリ、

第二百五十五條 本章ノ罪ニハ第二百四十四條ノ規定ヲ準用ス

釋義 本條ハ本章ノ罪ニ付キテハ親族相盜ノ規則ヲ準用スベキコトヲ定メタルモノナリ

贓物ニ關スル罪

第三十九章 贓物ニ關スル罪

釋義 本章ハ舊刑法第三編第二章第六節ノ規定ニ少シク修正ヲ加ヘタルモノニシテ、贓物ニ關スル罪トハ犯罪ニ依リテ收得セラレタル物件ヲ情ヲ知リテ收受、寄藏、運搬、故買、牙保スル罪ヲ云フ

第二百五十六條

贓物ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

贓物ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役及ビ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十七條

直系血族、配偶者、同居ノ親族又ハ家族及ビ

第二編 第三十九章 贓物ニ關スル罪

釋義 本條一項ハ贓物ヲ收受シタル者ノ罪ノ規定ニシテ第二項ハ贓物ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ノ罪ノ規ナリ、舊刑法ハ強盜盜ノ贓物ト其

他ノ罪ニ關スル贓物トヲ區別シテ其刑ヲ異ニセリト雖モ新刑法ニ於テハ必要ナシトシテ此區別ヲ廢シ總テノ贓物ニ共通スル規定ヲ設ケ、反之、單ニ贓物ヲ收受シタル者ト運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者トハ其罪狀大ニ異ルモノアルヲ以テ之ヲ別シ其刑ヲ異ニセリ、贓物トハ犯罪ニ依リテ占有ヲ取得シ又ハ所持シタル有體物ヲ云フ、然レトモ犯罪ニ由來スルモ民法上所有權移轉ノ効ヲ生シタル物件例ヘハ醜業婦ノ所得ノ如キハ贓物ト云フコトヲ得ス、改更トハ所ク贓物ノ保有ヲ得ルコトヲ意味シ交換ニ依リテ得タルト贈與ニ依リテ得タルト其名義ハ問フ所ニアラス、寄藏トハ普ネク贓物ノ發見ヲ困難ナラシメ又ハ不能ナラスムルノ行爲ヲ云フ、故買トハ贓物タルコトヲ知リテ殊更ニ買取ルコトヲ云ヒ、牙保トハ贓物ノ有償處分ニ加効スルコトヲ指スモノニシテ贓物ノ賣却買入等ヲ週旋スルコトヲ云フ

此等ノ者ノ配偶者ノ間ニ於テ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除ス

親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

要覽 本條ハ特別ノ身分關係アル者ニ關シテハ贓物ニ關スル罪ヲ免除スルコトヲ定メタルモノナリ蓋シ同居ノ親族家族間ニ於テハ贓物タルコトヲ知ルモ之ヲ收更シ藏置シ牙保スルハ人情ノ然ラシムル所ナレハ法律ハ其刑ヲ免除シテ問ハサルコトト爲シタリ但シ共犯タル他人ニ付キテハ之ヲ免除スベキ理由ナキヲ以テ第一項第二項ニ規定スル區別ニ依リテ刑罪ヲ課スルコトトナシタリ

第四十章 毀棄及ヒ隱匿ノ罪

要覽 本章ハ舊刑法第三編第二章第十二節ノ規定ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ其修正ノ重ナル點ハ(一)官文書ノ毀棄ニ關スル規定ヲ官文書儘造罪中ヨリ摘出シテ之ヲ本章中ニ移シ汎ク公務所ノ用ニ供スル文書ノ毀棄ニ關スル

毀棄及ヒ
隱匿ノ罪

規定ヲ設ケ(二)舊刑法ハ自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ又ハ物權若クハ賃貸借契約ノ目的トナリ或ハ之ヲ保險ニ附シタル場合ニ於テ之ヲ遺棄シタル行爲ニ關スル規定ヲ缺クヲ以テ新刑法ニ於テ之ヲ補修セリ

第二百五十八條

公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者

ハ三月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

要覽 本條ハ官公文書ノ毀棄罪ノ規定ナリ文書ノ毀棄トハ文書ノ効用ヲ消滅減少スル行爲ヲ謂フモノニシテ物質ヲ滅盡スルト否トヲ問フコトナシ故ニ文書ノ紙ニ貼紙ヲ爲ス如キハ却テ物質ヲ増加スルモノナルモ文書ノ意味ヲ不明ナラシメタルトキハ毀棄タリ

第二百五十九條

權利義務ニ關スル他人ノ文書ヲ遺棄シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

要覽 本條ハ私文書ノ毀棄罪ヲ規定セモノナリ

第二百六十條

他人ノ建造物又ハ艦船ヲ損壞シタル者ハ五

第二編 第四十章 毀棄及ヒ隱匿ノ罪

年以下ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

圖釋 本條ハ他人ノ建造物艦船ヲ損壞シタル者ヲ罰スル規定ニシテ是等ノ物件中ニハ人ノ現在スル場合多キノミナラズ財産上ノ價格ニ於テモ高價ナルモノナレハ危害大ナリトシテ五年以下ノ懲役ニ處スルコト、シ、因リテ人ヲ死傷ニ致シタル場合ニ於テハ事態更ニ重大ナルヲ以テ傷害罪ヲ以テ論スルコト、爲シタリ、

第二百六十一條 前三條ニ記載シタル以外ノ物ヲ損壞又ハ傷害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

圖釋 本條ハ前三條以外ノ物件ノ毀壞罪ニ付キテ規定セリ、前三條ニ規定セル物件ハ吾人ノ權利財産ノ上ニ重大ナル關係ヲ有スルモノナルヲ以テ比較的重ク罰スルノ必要アリト雖モ其他ノ物件ニ至リテハ上述ノ物件ノ如ク重

要ナリト云フヘカラス然レトモ此種ノ物件ト雖モ法ハ之ニ對スル損壞ノ行爲ヲ不問ニ附スヘキ理由ナキヲ以テ概括的ノ規定ヲ設ケテ一般私人ノ財産ヲ保護セント期シタリ、

第二百六十二條 自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シタルモノヲ損壞又ハ傷害シタルトキハ前三條ノ例ニ依ル

圖釋 本條ハ自己ノ所有ニ屬スル物ト雖モ他人ノ權利ヲ侵害スル場合ニ於テハ其毀棄ノ行爲ヲ罰スルコトヲ規定シタルモノナリ、差押ト云フハ債權者ヨリ差押ラレタルモノナルト證據保全ノ爲メ差押ヘラレタルモノナルトヲ區別セス、物權ヲ負擔ストハ物權ノ設定ニ依リ義務ヲ負擔スルコトヲ指ス例ヘハ抵當權地上權ヲ設定セルカ如シ、

第二百六十三條 他人ノ信書ヲ隱匿シタル者ハ六月以下ノ徵役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

隱匿 本條ハ他人ノ信書ヲ隱匿シタル者ヲ罰スル規定ナリ、信書ハ人ノ利害ニ重大ノ關係ヲ有スルモノナルヲ以テ法律ハ他人ノ信書ヲ隱匿シテ他人ノ利益ヲ害シ自己ノ便ヲ計ル行爲ヲ防遏セント期シタリ、

第二百六十四條 第二百五十九條、第二百六十一條、及ヒ

前條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

隱匿 本條ハ私文書ノ毀棄、建造物艦船以外ノ財物損壞、信書ノ隱匿ハ告訴ヲ待テ論スヘキコトヲ定メタルモノナリ、是等ノ行爲ハモト財產權利ノ上ニ重大ナル關係ヲ有スルモノナルヲ以テ法律ハ之ヲ罰スルノ規定ヲ設ケタリト雖モ人ニ依リテハ或ハ是等ノ行爲ニ依リテ毫モ痛痒ヲ感セサルコトアルノミナラス又時トシテハ信書ノ隱匿ノ如キ財物ノ損壞ノ如キ恰ンド被害者ノ權利財產ニ何等ノ影響ヲ及ホサ、ルコトナシトセス、然ルニ被害者ニ於テ之ヲ罰スルノ意思ナキニ強キテ之ヲ所罰セントスルハ徒ラニ無用ノ刑ヲ科シテ何ノ得ル所ナシ、故ニ本條ニ於テハ是等ノ罪ヲ以テ親告罪ト爲シタリ、

明治四十年五月二日印刷
明治四十年五月五日發行

改正刑法要義

定上製金八拾五錢
價並製金六拾五錢

著者 小川市太郎

發行者 大葉久吉

東京市日本橋區本石町三丁目十七番地

發行者 吉岡平助

大阪市東區備後町四丁目七十八番地

印刷者 青木弘

東京市牛込區市ヶ谷加賀町二丁目十二番地

不許複製

發兌

東京市日本橋區本石町三丁目
大阪市東區備後町四丁目

寶文館

類書濟經制法館文實

- 法學士 辨護士 太田資時著 洋一册 定價 金參拾五錢
- 俗通 改正 刑法註釋 九山長渡著 洋一册 定價 金貳拾八錢
- 法學士 西川一男參助 法學士 丸山長渡著 洋一册 定價 金貳拾八錢
- 正改 商法要義 法學博士 毛戶勝元 洋一册 定價 金貳拾八錢
- 京師帝國大學藏版 法學博士 毛戶勝元 洋一册 定價 金貳拾八錢
- 法學博士 跡部定次郎 法學博士 毛戶勝元 洋一册 定價 金貳拾八錢
- 法學博士 跡部定次郎 法學博士 毛戶勝元 洋一册 定價 金貳拾八錢
- 國際 民法論 法學博士 市村光惠著 洋一册 定價 金貳拾八錢
- 法學博士 織田 萬論評 法學士 市村光惠著 洋一册 定價 金貳拾八錢
- 行政 法原理 法學博士 市村光惠著 洋一册 定價 金貳拾八錢
- 京師帝國大學助教授 法學士 市村光惠著 洋一册 定價 金貳拾八錢
- 醫師の權利義務 京師帝國大學法科大學教授 法學博士 織田 萬著 洋一册 定價 金壹圓貳拾錢
- 京師帝國大學法科大學教授 法學博士 織田 萬著 洋一册 定價 金壹圓貳拾錢
- 鑛業法令講義 京師帝國大學教授 法學博士 織田 萬著 洋一册 定價 金壹圓貳拾錢
- 法學博士 織田 萬著 洋一册 定價 金壹圓貳拾錢
- 法學通論 京師帝國大學教授 法學博士 織田 萬著 洋一册 定價 金壹圓貳拾錢

類書濟經制法館文實

- 大藏 主稅局勤務 竹内伊四郎著 洋一册 定價 金貳圓五拾錢
- 速知 執務纂要 在大學院經濟專攻法學士 夏秋龜一著 洋一册 定價 金壹圓五拾錢
- 法學博士 福田德三原著 商學士 坂西山藏譯 洋一册 定價 金壹圓五拾錢
- 日本 經濟史論 東京高等商業學校教授 佐野善作著 洋一册 定價 金壹圓貳拾錢
- 法學博士 藤井宇平著 洋一册 定價 金壹圓貳拾錢
- 通俗 人生及經濟 朝鮮協會藏版 岩永重華著 洋一册 定價 金壹圓貳拾錢
- 最新 韓國實業指針 東京帝國大學講師 山内正瞭著 洋一册 定價 金壹圓貳拾錢
- 經濟 教科書 石川縣市立金澤商業學校教授 中野觀象 洋一册 定價 金壹圓貳拾錢
- 商業 簿記學 石川縣市立金澤商業學校教授 中野觀象 洋一册 定價 金壹圓貳拾錢

典辭發館文實

法學士 田邊慶 編

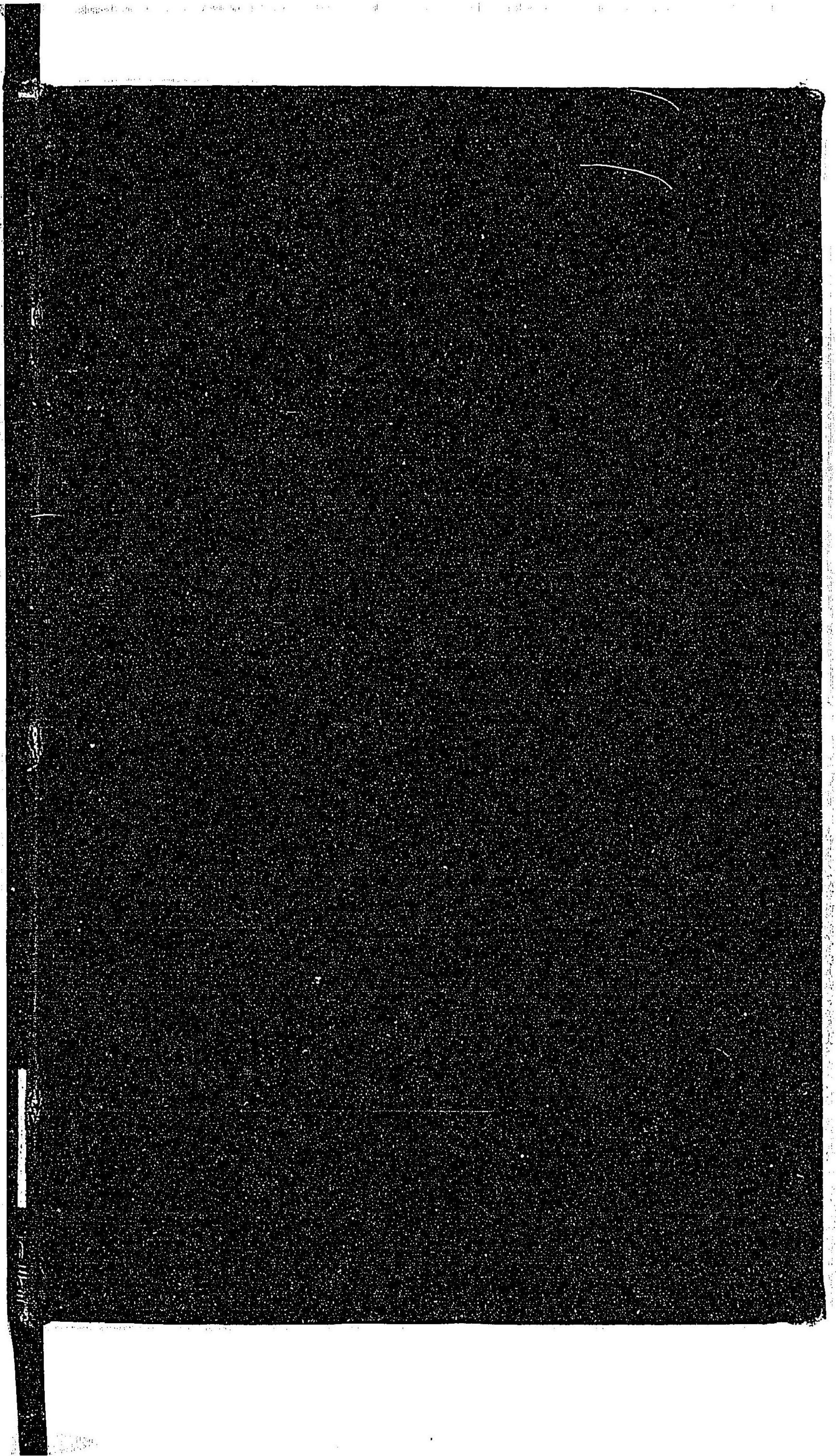
法律經濟辭典

上製 定價 金壹圓
全一冊 郵稅 金拾錢

法制經濟を研究せんとするもの、先づ之が用語の意義に就きて知る所なくんば、爲めに正確穩當の解釋知識を得ること難し從來坊間一二の法律字典なきにあらざるも、或は其採集せる用語の範圍狭きに失し、或は法律學と密接の關係ある經濟學の用語に就き未だ一言も之が解釋を與へたるものなきは大に遺憾とすべし。本書茲に鑑る處あり、帝國の六法其他各種の單行法及遍く諸大家の著作にかゝる法律經濟の群書を涉獵して編述せられたるもの、意義精確而も簡明にして其大要を得たり苟も斯學に志す中學師範農工商業其他各種の專門學校の學生を始めとし、諸官衙市町村員吏及銀行會社等實業に従事する者に至るまで一本を備へざる可らざるの良書なり。

90

223



90
223

035545-000-8

90-223

改正刑法要義

小川 市太郎 / 著

M40

BBP-0087



90-223